

官報

號外 昭和六年三月二十六日

○第五十九回 貴族院議事速記録第三十九號

昭和六年三月二十五日(水曜日)午前十時三十分開議

議事日程 第三十九號

昭和六年三月二十五日

午前十時開議

第一 請願委員長報告

第二 簡易生命保險法中改正法律案

(政府提出、衆議院送付)

第三 重要産業ノ統制ニ關スル法律案

(政府提出、衆議院送付)

第四 關稅定率法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第五 北海道石狩國ニ國立種馬所設置ノ請願

第六 泊居港修築ノ請願

第七 滋賀縣信樂各町村ニ砂防工事施行ノ請願

第八 富士山ヲ中心トスル國立公園指定ノ請願

第九 自動車取締統一ノ請願

第十 農村救済ニ關スル請願(文書表第百八十二號)

第十一 產馬ノ事業經營ニ關スル請願

第十二 漁村負擔輕減ノ請願

第十三 中等學校地理歴史科教員海外派遣ノ請願

第十四 地方改善育英資金増額ノ請願

第十五 未成年者飲酒禁止法ノ改正法律案

第十六 國旗ノ樣式及ヒ取扱等ニ關スル請願

第十七 忠清道道廳ヲ大同ニ移轉ノ請願

第十八 廣島、濱田間鐵道速成ノ請願

第十九 商工會法制定ノ請願

第二十 航空行政ノ統一及ヒ施設擴張ニ關スル請願

第二十一 國防調查會設置ノ請願

第二十二 北海道天鹽川河口修築ノ請願

第二十三 北海道遠別鐵道速成ノ請願

第二十四 北海道大津川河口改修ノ請願

第二十五 煉乳原料砂糖稅法中改正ノ請願

第二十六 雪害ニ關シ市町村義務教育費國庫負擔法ノ施行勅令改正ノ請願

第二十七 東京ニ於ケル震災ノ爲メ土地區劃整理ヲ施行セル地區内ノ本建築者手續費ノ請願

第二十八 山村住民救済ニ關スル請願

第二十九 北海道稚内港ト利尻、禮文、兩島間ノ連絡航路開始ニ關スル請願

第三十 融和事業ノ施設ニ關スル請願

第三十一 盲人保護法制定ノ請願

第三十二 盲學齡兒童ノ義務教育制度制定ノ請願

第三十三 京都府寺田郵便局ニ電信事務開始ノ請願

第三十四 國產飛行機購入者ニ國庫補助ノ請願

第三十五 航空機及ヒ同器材ノ發明考案獎勵ニ關スル請願

第三十六 定期航空路擴張並ニ民間飛行場増設ノ請願

第三十七 新宮川治水工事速成ノ請願

第三十八 女子圖藝專門學校設立ノ請願

第三十九 北海道落石燈臺ニ霧笛ノ設置及ヒ納沙布水道ニ航路標識施設ノ請願

第四十 北海道苫前村ニ航路標識設置ノ請願

第四十一 北海道羽幌鐵道速成ノ請願

第四十二 北海道根室ニ航空港設置ノ請願

第四十三 北海道花咲郡離島及ヒ國後色丹各島ニ無線電信裝置ノ請願

第四十四 東海道鐵道品川、田町兩驛間ニ停車場設置ノ請願

第四十五 知識階級失業者ノ救済ニ關スル請願

第四十六 福島縣湯本驛北方暗渠開鑿ニ關スル請願

第四十七 小作爭議取締法制定ニ關スル請願

第四十八 釋放者保護制度制定ノ請願

第四十九 農村救済ニ關スル請願(文書表第三百七十七號)

第五十 水產會議會設置ノ請願

第五十一 人造絹絲保稅工場許可反對ノ請願

第五十二 北海道紋別郡遠輕村ニ野付牛區裁判所出張所設置ノ請願

第五十三 樺太ニ衆議院議員選舉法施行ノ請願

第五十四 知識階級失業者救済事業費國庫補助ノ請願

第五十五 東京ヨリ北海道札幌及ヒ樺太豐原間航空路開設ノ請願

第五十六 島根縣簸川郡上津村ニ郵便局設置ノ請願

第五十七 政府ノ綿羊飼育獎勵施設充實ニ關スル請願(文書表第四百四號)

第五十八 奉天柳原農場ノ既得權回復ニ關スル請願

第五十九 政府ノ綿羊飼育獎勵施設充實ニ關スル請願(文書表第四百九號)

○議長(公使館川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

(小林書記官朗讀)

昨二十四日本院ニ於テ承諾スルコトヲ議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ奏上シ又承諾スルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和四年度第一豫備金支出ノ件

昭和四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和四年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件追加

昭和四年度特別會計第二豫備金支出ノ件

昭和四年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件追加

昭和五年度第二豫備金支出ノ件

昭和五年度特別會計第二豫備金支出ノ件

後幾多ノ變遷ヲ經テ參リマシタガ、現ニ此會社ハ年額一割乃至一割ニ近イ利廻配當ヲパスルガ爲ニ、樺太工業株式會社カラ其自家用發電所發生ノ電力ヲ「キロワット」ニ付キマシテ、平均五錢五六厘ナルモノヲ買入レマシテ、之ヲ平均七倍ノ四十錢デ以テ之ヲ需要者ニ供給シテ居ルノデアリマス、然ルニ昭和五年三月四月以來經濟界ノ恐慌ガ益、深刻トナリマシテ、眞岡町ノ經濟存立ノ資源デアル製紙ヤ蠶ノ蠶詰、或ハ製材其他ノ生産物ノ賣價ガ四割乃至七八割ノ暴落ヲ來シタノデアリマス、而シテ各種ノ生産悉ク危殆ニ陥リ、從テ其收入ヲ激減イタシマシタ、同時ニ其生活ガ極度ニ苛威セラレタノデアリマス、然ルニ獨リ此電氣料金ノミガ舊率ヲ保持イタシマシテ引下ゲナイ、此不條理ノ爲ニ眞岡町會ハ電氣料金値下要求ノ決議ヲ致シマシテ、其委員ハ數回ニ互ニ會社重役ニ交渉スルト共ニ、一面電氣料金ノ統制權ヲ有スル樺太長官ニ屢、陳情イタシマシテ、定額燈料三割、從量燈料四割ノ値下ヲバ懇請イタシマシタガ、會社重役ハ之ヲ承諾セズ、長官モ亦定額燈中需要家ノ最モ少イモノニ付キマシテハ、一割以上、其最モ多キモノニ付キマシテハ一割以下ノ低減ヲ行ヒマシタガ、需要ノ最大多數デアル從量燈ニ付テハ何等手ヲ觸ルル所ガナイ、茲ニ於キマシテ町民ハ極度ニ興奮イタシマシテ、遂ニ會社ニ對スル電氣不買同盟ヲバ組織シ、電燈ヲバ廢止イタシマシテ、洋燈ヲ、又ハ「カーバイト」燈ノ照明ヲ以テ全町ヲバ暗黒ニ立至ラシメタノデアリマス、此ニ依テ同町會ハ之ガ救済對策ト致シマシテ、電氣供給ノ町營企業案及ビ其起債案等ヲバ可決イタシマシテ、其生活上ノ負擔ノ輕減ヲ圖ルト共ニ現ニ破綻ニ瀕シツツアル自治團體ノ財政ヲバ其企業ノ利潤ニ依テ救済シ、豫テ永遠ニ互ル恒久財源ヲバ確立セムト致シマシタガ、同長官ハ之ヲバ許可スル時ニハ既設電氣會社ノ營業權ヲバ

害スルノ虞レガアルヲ以テ行政上適當ナラザルモノト思量スト稱シテ許サレナイ、茲ニ於テ貴族院ニ請願シ、暗黒ナル眞岡町デハ救ハレタイト云フ所ノ趣旨ノ請願デアリマス、仍テ請願第三分科及ビ請願委員會ハ長官ヨリ詳細ナル説明並ニ御意見ヲ承ハリマシタガ、其答辯ト致シマシテハ、既設電氣會社ノ營業權ヲ侵害スル虞ガアル、且ツ電燈料モ段々低下シツツアルカラ、當局ハ此際電氣事業ヲバ町營ニスルト云フコトハ許ス必要ハナイ、斯様ナコトデゴザイマシタ、併ナガラ適當ナル方法ヲ講ジテ、成ルベク早ク是ガ解決ニ努ムルト云フ言明デゴザイマシタ、委員ハ長官ノ此言ヲ諒ト致シマシテ、一日モ早ク誠意ヲ以テ之ガ善處解決セララルモノト信ジマシテ、町民ノ請願ヲバ採擇セズ、審查未了ニ決定イタシタノデゴザイマス、委員一同ハ念ノ爲ニ本議場ニ於キマシテ更ニ當局ニ向テ町民ノ意思ヲ尊重シ、危機ニ頻シツツアル眞岡町ノ財政ノ基礎ヲバ確立シ、誠心誠意一日モ早ク是ガ解決ニ善處セラレヤウ、此處ニ大臣ノ御出席ヲ請ヒマシテ、此委員ノ希望ヲバ申述ベル次第デゴザイマス

○議長公爵徳川家達君 日程第二、簡易生命保險法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第三、重要産業……只今ノハ議長ノ誤リデゴザイマス……第一讀會ノ續、委員長報告、小松謙次郎君ノ登壇ヲ望ミマス

簡易生命保險法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和六年三月二十四日

副委員長 小松謙次郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔小松謙次郎君演壇ニ登ル〕

○小松謙次郎君 簡易生命保險法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告イタシ

マス、去ル三月十六日本法案ハ我々委員會ニ付託セラレタノデアリマス、當時公爵徳川閣下君ガ委員長ニ、私が副委員長ニ當選ヲ致シマシタノデアリマス、十六日以来委員會ヲ開クコト數回デアリマス、詳細質問應答ヲ重ネマシタ上、特ニ委員外ノ諸君ニシテ最モ本案ニ反對セラレタ所ノ議員諸君ニ質問ノ機會ヲ與ヘマシタ、二日ニ互ニ詳細質問應答ヲ重ネタ次第デアリマス、而シテ其審議ノ結果ハ、本案ハ可決スベキモノナリト決定イタシタノデアリマス、此法案ノ大體ニ付テ御報告ヲ致シタイト思フノデアリマス、本法案ハ世ニ謂フ小兒保險ノ開始ヲ致ス爲ニスル所ノ改正案デアリマシテ、小兒保險ナルモノハ此度初メテ此法案ニ依テ開始ヲ致スノデアリマス、此保險ノ要項ハ既ニ本案提出ノ際政府當局ヨリ説明ヲセラレタノデアリマス、特ニ此處ニ詳細申上ゲル必要ハナイノデアリマス、ガ、骨子ダケヲ申上ゲマスデアリマス、此加入スベキ小兒ノ年齡ハ三歲以上十二歲未滿ト云フコトニナッテ居リマス、保險金ノ制限ハ被保險者十二歲未滿ニシテ死亡シタル場合ニ於テ支拂フベキ保險金額ニ付テハ、其死亡當時ノ年齡ニ應ジ左ノ制限ヲ設クト云フコトデアリマシテ、是ハ月掛一圓ノ者ニ對シテ四歲未滿ハ六十圓、五歲未滿ハ八十圓、六歲未滿ハ百圓、七歲未滿ハ百二十圓、八歲未滿ハ百四十圓、九歲未滿ハ百六十圓、十歲未滿ハ百八十圓、十二歲未滿ハ二百圓、其最高ハ十二歲以上ニ至リマシテ二百七十六圓ト云フコトニ相成テ居リマス、保險料ハ月掛五十錢及ビ一圓ノ二種トシテ居リマス、是ガ大體本法案ノ骨子デアリマシテ、所謂小兒保險ナルモノガ茲ニアル譯デアリマス、元來此小兒保險ハ其性質ニ於テ簡易生命保險中ニ包含セラレベキモノデアリマス、又小兒保險ハ我國ニ於テハ民衆トシテ營ムコトガ困難デアリマス、現ニ此小兒保險……、小兒死亡保險ト

云フモノニ對シマシテハ、現在ニ於テ民衆トシテ起テ居ルモノハナイノデアリマス、此小兒保險ガ社會的施設デアルト云フコトハ國民全般ニ適用スル仕組ミデアッテ、サウシテ如何ナル薄資ノ者ト雖モ之ニ加入シ得ルト云フコトヲ根本義ニ致シテ居ルノデアリマス、又國民……小兒保險ハ非營利主義ニ立脚シテ居ルノデアリマシテ、斯様ナ事柄ハ政府ナラデハ到底行フコトガ出來ナイノデアリマス、ソレカラ被保險者ニ對スル種々ノ健康保護増進ノ施設ヲ無料ニ提供スル設備ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、又郵便物ノ無料、印紙稅ノ免稅ト云フヤウナモノモ之ニ加ハッテ居ルノデアリマス、契約者ノ貸付利率ハ最モ低廉ニ行フ仕組ミニナッテ居リマス、若シ此運用ニ於テ多少ノ利益ヲ生ズル場合ニ於テハ契約者ニ對シテ保險料ノ割増ヲ……割戻シヲ爲スト云フ制度モ行フノデアリマス、其他種々ノ利便ガアリマス、ガ、就中此被保險者ノ不具癸疾トナリタル時ハ將來ノ保險料ヲ免除スルト云フヤウナ規定モアルノデアリマス、之ヲ官營ニ致サナケレバナラヌト云フ事柄ハ、簡易保險ハ一般薄資者ニマデ適用シ得ル生命保險デアリマス、カラ、普通ノ保險ヨリモ特ニ其基礎ノ確實ナルコトヲ要スルガ故ニ、政府デ之ヲ爲ス必要ガアルノデアリマス、又之ヲ普通保險ノ如キ制度デ執リ行フコトハ營利事業トシテ不適當デアルノデアリマス、保險金額ガ小サイ爲ニ普通保險トシテハ到底費用ガ多クシテ其營利ノ目的ヲ達スルコトガ不可能デアリマス、又保險料ハ月掛デアリマシテ、郵便局員ヲシテ集金セシムルノデアリマス、カラ、保險ヲ契約スル者ニ取リマシテハ頗ル便利デアルソデアリマス、尙ホ其外最モ必要トスルノハ、無診査、所謂健康診斷ヲシナイ普通ノ簡易保險ト同様ノ制度ニシテアルノデアリマス、又小兒保險ヲ普通保險ヲ以テシヤウト致ス場合ニハ、此十歲未滿ノ小兒ノ健康狀態ト云

フモノハ診査致スニハ非常ニ的確ナルコトヲ得ルコトハムツカシイノデアリマス、斯様ナ意味合デ、此度政府ガ此コトヲ行フト云フデアリマス、デ之ニ對シテ最モ非難ヲ多クイハ、豫テ簡易生命保險ハ民業ヲ大分壓迫シテ居ル、又小兒保險ナドヲ始メルト云フト民業ニ非常ナ關係ガアルト云フコトガ非難ノ最モ大ナル點デアリマス、其事ハ主トシテ是ト直接影響ヲ受クルデアラウト見ユルモノハ、所謂徵兵保險ト云フノ關係デアリマス、徵兵保險ハ生存保險デアリマシテ、死亡保險トハ違フデアリマス、又保險金額ハ最低ガ三百圓、最高ガ二萬圓デアリマシテ、是亦此保險ノ……簡易保險ノ最低三十圓、最高二百七十六圓ト云フモノニ比シマスレバ、殆トハ關係ノ無イ形デアリマス、又保險料ハ月額五十錢ト一圓トデアリマシテ、此普通ノ徵兵保險ノ千圓ニ付テ五十六圓乃至百五十九圓トハ、餘ホド懸離レテ居ルノデアリマス、ソレカテ保險料拂込ノ方法ハ月掛集金デアリマシテ、徵兵保險ノ年額トハ亦趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、其外被保險者ガ、男女ニ別ハナイノデアリマス、加入年齢ハ即チ三歲以上デアリマシテ、徵兵保險ノ零歳以上ト云フモノト是亦異ニシテ居ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ果シテ民業ヲ壓迫スルヤ否ヤノ點ニ付テハ、當局者ト民業ニ關係アル人ミトノ間ニ相當論議ヲ戰ハシタノデアリマス、何等民業ニ影響ナキモノト云フノ説明デアリマシタ、尙ホ通信當局ノ外商工省ノ保險當局ノ意見ヲ尋ネマシタノデアリマス、小兒保險ハ既設ノ徵兵保險若クハ生存保險ニ害ヲ與フルモノニアラズト云フ見解ヲ有、テ居ラレノデアリマス、斯様ニシテ政府ガ此際小兒保險ヲ開始スルト云フコトハ、最モ適當デアルト云フコトニ、委員ハ認メタノデアリマス、元來簡易生命保險ハ、御承知ノ如ク大正五

年ニ行、タモノデアリマシテ、當時非常ナ民業ノ壓迫ヲスルモノナリト云フ非難ノ下ニ論議ヲ開ハシタコトハ、皆様方モ御記憶ノ存スル所デアルト思フノデアリマス、爾來經過ヲ見マス、非常ナ好成绩ヲ擧ゲテ居リマシテ、加入者ノ總數ハ最近ニ於テ千六百萬、又其契約ノ保險金ハ二十一億圓ニ達シテ居ルノデアリマス、斯様ナ成功ヲ遂ゲマシタニ拘ラズ、民間ノ所謂普通生命保險ハドウデアアルカト申シマスレバ、契約ガ六百萬、サウシテ其總數ハ七十七億圓ニ達シテ居ルノデアリマス、即チ全然相俟、テ五ニ繁昌ヲ致シテ居ルト云フ形デアリマス、斯様ノ成績ヲ得マシタコトハ、是ハ我國初マデ以來如何ナル制度デモス様ニ好成绩ヲ擧ゲタモノハナイト思フノデアリマス、現ニ進歩シタル外國ノ保險業者ノ評論ニ依リマス、日本ノ官營ノ簡易生命保險ナルモノハ、全ク典型的ノ日本ノ式ノモノデアルト云フコトヲ稱讃イタシテ居ルノデアリマス、詰リ是ハ日本ノ國民性ニ負フ所ガ頗ル多イト云フコトヲ稱讃シ、尙ホ若シ自分ノ國ノ政治家ガ、此事業ヲ自分ノ國ニ於テモ出來ルト思フヤウナ人ガアレバ、ソレハ大ナル間違デアラウト云フヤウナ事マデ申シテ稱讃ヲ致シテ居ルノデアリマス、唯其評論ノ中ニ、小兒保險ノ制ガ行ハレテ居ラズト云フコトハ、日本ニ取テ甚ダ遺憾ノ點デアルト云フ評論ヲ致シテ居ル位デアリマス、元來此國民ノ中ニ於テ、保險ニ加入ヲ致スコトノ出來ナイ人口ハ、零歳カラ十二歳迄ノ兒童ガ千八百萬人、三歳カラ十二歳迄ノ小兒ノ數ハ千五百萬人ト云フコトデアリマス、是等ノ小國民ハ是マデ如何ナル方面カラモ、死亡保險ニ加入スルノ制度ガナカリシ爲ニ、今日ニ至、テ居ルノデアリマス、若シ此制度ガ行ハレヤウニナリマシタラバ、更ニ此簡易生命保險ニ非常ナ領域ヲ殖ヤスコトデアリマシテ、此結果ト云フモノハ餘程ノ好成绩ヲ擧ゲル

ニ至ルデアラウト存ズルノデアリマス、唯茲ニ惜ムベキコトハ零歳ヨリ始メルト云フ制度ガ行ハレテ居ラズコトデアリマス、從テ三百萬人ノ人ハ此恩典ニ浴スルコトガ出來ナイト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマス、併シハ小兒保險スラモ今日迄實施ヲ見ルニ至ラナカッタ位ナコトデアリマシテ、我國最初ノコトデアリ、死亡率ノ關係、其他ノ危險ノ關係等ヨリ致シマシテ、尙ホ十分調査研究ヲシテ漸次之ニ及ボスノ必要アリト認メテ居ルノデアリマス、若シ是等ノ人ミマデ悉ク簡易生命保險ニ加入スルコトガ出來ルヤウニナリマシタラバ、茲ニ至、テ初メテ郵便貯金ヤ其他ノ如ク、簡易生命保險ナルモノハ國民ノ所謂生命保險デアルト云フコトニナラウト思フノデアリマス、此問題ニ付キマシテハ種々ノ質問モアリマシテ、之ヲ御紹介スルコトガ宜シイノデアリマス、餘リニ煩デアリマス、決議ニ今ダラキノ程度ニ止メテ置キマス、決議ニ當リマシテ、委員ノ全員ニ於テ協議ヲ致シマシタ末ニ、或ル一員ヨリ希望ヲ決議ヲ附ケタイト云フコトヲ發議サレタノデアリマス、ソレハ

○小兒保險ヲ此度開始スルノ趣旨ニ鑑ミ又民業トノ關係ヲモ考慮シテ嚴ニ左ノ事項ヲ遵守セラレムコトヲ望ム

一、保險料月額一圓以上ノ種類ヲ設ケザルコト

一、保險料ハ月額一圓及五十錢ノ外更ニ三十錢ノ一種ヲ設クルコト

一、保險金額ハ二百八十圓ヲ限度トシ將來之ヲ増額セムトスルコトキハ特ニ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコト

斯ウ云フ希望決議ヲ致シタノデアリマス、是ハ全員一致ノ意見デアリマシテ、此事ハ本員ヨリ本會議ニ御報告ヲ致スヤウニト云フコトノ決議デアリマシタ、尙ホ此事ニ付キマシテ通信大臣ハ是等ノ事項ハ何レモ尤ナ意見デアルカラ、全部之ニ賛成ヲシテ必ズ此條件ニ副フコトヲ期スルト云フ意見ヲ表示セラレタノデアリマス、多分本會議ニ於キマシテモ、此事ニ付キマシテハ通信大臣ヨリ特ニ言明ヲ得ルデアラウト考ヘテ居リマス、從テ簡易生命保險法中改正法律案ハ只今ノ希望決議ヲ添ヘマシテ、全部全會一致ヲ以テ可決スベキモノナリト決定ヲ致シタノデアリマス、何卒此千五百万人ノ小國民ニ對スル福音ノ現實ニ現ハレムコトヲ希望シテ已マザル次第デアリマス

〔國務大臣小泉又次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(小泉又次郎君) 只今委員長ノ御報告中委員會ニ於ケル希望決議ニ對シテ政府ノ所信ヲ簡單ニ申述ベタイト存ジマス、決議トシテ擧ゲラレマシタル三點ノ事項ハ何レモ適當ト存ジマス、故ニ、政府ニ於キマシテハ、努メテ御趣意ノアル所ニ從ヒマシテ、誠意ヲ以テ取運ブコトニ致スト云フコトヲ茲ニ改メテ言明イタシマス

〔土方寧君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 土方君ハ何デスカ

○土方寧君 簡單ニ意見ヲ述べタウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○土方寧君 簡單デスカテ此處デ御許シテ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス、若シ御長クナリマシタラ登壇ヲ願ヒマス

○土方寧君 短イノデス、只今委員長カラ詳細ノ御報告ヲ受ケマシテ、一致デ可決ニナッタノデアリマス、ガドウモ私ハ不安ニ思ヒマス、十二歳未満ノ兒童ノ保險ト申シマスコトハ餘程ドウモ考ヘモノデアアル、何處ノ國デモ幼兒ハ死亡率ガ高ウゴザイマス、日本ハ特ニ他ノ國ヨリ多イヤウデアリマス、ソレガ爲ニ被保險者ノ死亡ニ付テハ危險ガ多イ、斯ウ云フコトデアリマシテ、今迄ハ實際ハ

會ノ議ヲ經テ之ヲ定メルト云フコトニナ
テ居ルノデ、最モ慎重ニ是ヲ行ヒタイト思
フト、決シテ政府ニ於テ強制力ニシテ、事
業ニ向テ強制力ニシテ、實施スル、統制ヲ行
フコトヲ譯シテ、出來ルダケ當業者
ノ自發ヲ待チ、又共鳴ヲ得テ、之ヲ成タケ
執行スルヤウニシタイ、本法案ニハ種々ノ
罰則ガ設ケテアルガ、是ハ唯萬一ノ強制力
ノ爲ニ設ケテアルノデ、政府ハ當業者ノ自
發ヲ待テ之ヲ行フコトニスル、勿論、指導
ヲ圖ルコトハ無論デアルケレドモ、當業者
ノ自發ヲ待テ之ヲ行フコトヲ原則
トシテ、慎重ニ之ヲ取計ヒタイト云フコト
デアリマシタ、尙又次ニ、先程申上ゲマシ
タ第二條ノ、加盟同業者ノ三分ノ二ガ之ヲ
申請シタ場合ニハ、其他ノ殘ル同業者ニ向
テモ、政府ハ統制ノ強制ヲスルト云フコト
ニナツテ居リマスルガ、斯カル場合ニハ往々
小工業ノモノガ大工業ノモノヲ壓迫シ脅ス
ト云フ憂ガアル、既ニ民間ニ於テ行ハレタ
統制ノ狀況ニ照シテ、斯カル例ガアツテ頗ル
大工業ガ不利ニシテ、斯カル例ガアツテ頗ル
ヲ危クスト云フヤウナコトガアツタノデ
アルガ、競争ノ激シイ今日、斯カル例ナシ
トセヌノデアルガ、此點ハドウ云フ考ヲ持
テ居ルカト云フ質問モ出タノデアリマス
ガ、之ニ對シテモ政府ハ統制委員ニ一々ス
ウ云フ問題ハ、手續方法等ハ諸デアルノデ
アル、殊ニ統制委員會ハ、此所謂基本委員
トモ申スベキモノデアツテ、此外ニ其當業者
ノ委員ノ如キ團體ヲ、諮問團體ヲ一ツ設ケ
テ、互ニ相談ヲ致シテ、遺憾ノナイヤウニ
之ヲ行フ、之ニ例ニシテ申シマスレバ、或
ル一ツノ同業者ガアツテ、其統制協定ヲ行
ト云フ場合ニ於テハ、此基本委員ノ統制委
員ニ諸ルコトハ無論デアリマスガ、其外ニ
其同業者ノ中カラ若干ノ委員ガ出來テ、是
ハ統制委員デハナイノデ、其同業者ノ中カ
ラ、能ク事情ニ通ジタ者ヲ基本タル統制委
員ノ別ニ之ヲ設ケテ、以テ實際ノ狀況ニ能

ク適合シタ手續ヲ執ルノデアツテ、此點ニ於
テハ、政府ハ頗ル慎重ニ扱テ之ヲヤリタイ
趣旨デアル、決シテ大工業ガ小工業ニ壓迫
ヲサレルトカ云フヤウナ不公平ナコトノナ
イヤウニ期スルト云フ答辯デアツタノデア
リマス、ソレカラ第三條ノ社會ノ公益ト云
フ問題デアリマスガ、所謂本法案ニ對スル
最モ社會ニ重要視サレテル問題ハ、此消費
者ノ利益デアリマス、往々此統制ノ實行ヲ舉
ガムトスルト云フ、ドウシテモ同業者ノ
利益、同業者ノ協調ニ依テ利益ヲ維持シテ
行カウ、利益ヲ進メヤウト云フコトガ、本
法案ノ趣旨ニナリマスカラシテ、ドウシテ
モ此諸外國ノ「カルテル」「トラスト」等ノ例
ニ鑑ミマス云フ、物價鈞上ゲト云フ弊
「カルテル」「トラスト」等ノ弊害ヲ如何ニシ
テ消極的ニ之ヲ抑ヘテ行カウカト云フコト
ニ付テ、種々ノ法令ガ設ケラレテ居ル位デ
アル、マルデ我國ハ反對ナコトニナツテ居ル
ノデアルガ、今我國ニ於テ英國ヲ獨逸ニ於
テ二三ノ例ハアルモノノ、會テ世界ニ斯ノ
如キ統制案ハ行ハレタコトガナイ、之ヲ今
政府ガ當業者ノ無謀ナ競争ヲ矯正シテ、以
テ産業ノ發達ヲ圖ル上ニ付テハ、此統制協
定ヲ行フ、不幸ニシテ此物價鈞上ト云フ弊
ニ害セラレルト云フコトニナツタナラバ、甚
ダ國家ノ爲ニ寧ロ憂フベキ悲シムベキ弊害
ニ陷ル、デアアルカラ此公益ト云フコトヲ政
府ガ大ニ鑑ミテ、或ハ取消ト力變更ヲ命
ズルガ、果シテ其政府ノ趣旨ガ徹底ガ
出來ルカト云フ疑念ヲ有ツタ間ヒ等……
質問モアツタノデアリマスガ、之ニ對シテハ
政府ハ最モ此點ハ同感デアツテ、特ニ第三條
ヲ其爲ニ設ケタ次第デアツテ、是亦産業統制
委員ノ議ヲ經テ、此點ハ展、衆議院ノ特別委
員會デモ議論サレタコトデアツテ、深ク注意
ヲシテ行クト云フヤウナ問題デ、答辯デア
タノデアリマス、要スルニ此法案ノ運用、

此目的ヲ達スル爲ニ政府ガ之ヲ運用スル如
何ニ、前述ベマシタヤウナ質問ノ、心配サ
レル點、疑念等ハ、總テ此運用如何ニ存ス
ルト云フコトニ、我々ハ感シタデアリマス
ス、而シテ其運用如何ト云フコトハ、又此
統制委員會ノ構成組織ト云フコトガ、頗ル
重要ナ關係ニナツテ來ルノデアリマシテ、此
統制委員會ノ構成組織ト云フコトニ付テ政
府ニ質問イタシマシタ所、政府ノ答辯ハ、
此統制委員會ハ先ツ十五名位ノコトニ考ヘ
テ居、此十五名ハ貴衆兩院議員ソレカ
ラ民間ニ於ケル此統制ト云フコトニ付テ研
究ヲ、深ク研究シテ、斯道ニ通ジタ者、實
業家方面ナリ、ソレゾレ必要ナ人ヲ之ニ充
テテ、官吏ノ數ハ成ベク少クシタイ積リデ
アルト云フ答辯デアツタノデアリマス、先程
述ベマシタ如ク、是ガ基本委員會ト云フコ
トニナツテ、其別ニ統制ノ各ノ場合ニ於
テ、其同業者ノ中カラシテ、更ニ委員ヲ設
ケル場合モアツテ、是ト相俟ツテ統制委員會
ガ最モ公平ニ、適切ニ本案ノ趣旨ヲ徹底シ、
遺憾ナク實施シタイト云フ答辯デアツタノ
デアリマス、ソレデ特別委員會ニ於キマシ
テハ、色ミト研究モ致シ論議モ致シマシタ
結果、先程申シマス通りニ、本法案ハ極ク
重大ナ法案デアアルノデ、我國、今日ノ經濟
界ノ實際ニ鑑ミテ、此運用如何ト云フコト
ハ、努メテ注意ヲ政府ニ依テ拂テ貰ハス
ト云フ、若シ一歩ヲ誤ルト云フコトガア
タナラバ、却テ經濟界ヲ混亂シ、今日ノ國
力ノ上ニ付テ、増進スルヨリ寧ロ反對ノ結
果ヲ起ス憂ガアルト云フノデ、種々論議ガ
アリマシタガ、又ソレニ對シテ政府ニ質問
シタ點モ多クアツタノデアリマス、結局討論ニ
入リマシテカラ、一委員ヨリシテ此法案
ニ付キマシテ賛成ノ意見ガ出マシテ、此贊
成ノ意見ニ付テハ、附帶決議ヲシタイト云
フコトデアツタノデアリマス、此附帶決議ノ
趣意ハ先刻カラシテ委員會ノ經過トシテ申
上ゲマシタ如ク、第一ニ此統制協定ヲ致ス

上ニ付テ、或ハ小工業者ガ大工業者ヲ壓迫
スルト云フヤウナ憂ノアル點、又消費者ノ
利害ニ關スル點等ヲ縷々述ベラレマシタ、最
モ此統制委員會ノ構成ニ付テ深甚ノ注意ヲ
拂テ、最モ其公平ナル人、又最モ能ク實際
ニ通ジタ人ヲ選ンデ、各方面ノ利害ヲ遺憾
ナク代表シテ、立派ナ統制委員會ヲ政府ニ
於テ選定シテ、以テ其議ヲ經テ統制ヲ行、
往テ貴ヒタイ、往々此統制委員會ノ諮問機
關ハ是マデ歴代政府ノ施設ヲ見ルト云フト
有名無實ニナツタリ、或ハ又政府ノ責任ヲ
回避スル爲ニ設ケラレタ例ナドモ少クナイ
ヤウニ思ハレルノデアルカラシテ、此點ニ
付テハ十分ナル政府ガ責任ヲ以テヤツテ貴
ヒタイト云フ嚴重ナ附帶決議ヲシタイ、此
附帶決議ニ向テ、政府ノ明白ナル言明ヲ得
タイト云フ趣旨ノ附帶決議デアリマシタノ
デアリマス、其附帶決議ノ文案ハ本案ハ効
果ヲ收ムルト否トハ一ニ其ノ運用ノ如何ニ
存スルヲ以テ政府ハ之レカ運用ニ當リテハ
深甚ノ注意ヲ拂ハレムコトヲ望ム、殊ニ統
制委員會ノ構成ニ付テハ最モ慎重ニ考慮シ
各方面ノ利害ヲ代表セシムルト共ニ消費者
ノ利益ヲ害フコトナキヲ期スヘシ斯ウ云フ
附帶決議ヲ出サレタノデアリマス、之ニ對
シマシテ他ノ委員諸君モ同意ヲ表セラレマ
シテ、全會一致ヲ以テ此法案ヲ可決イタシ
タノデゴサイマス、尙ホ其際ニ商工大臣ヨ
リシテ、此附帶決議ニ對シテ決議ノ趣旨ノ
アル所ハ十分ニ了承イタシタノデ、本法案
通過ノ曉ニハ、必ズ此附帶決議ノ趣旨、只
今説明サレタ趣旨ヲ最モ嚴格ニ實施シテ遺
憾ナキヲ期スルト云フコトヲ明白ニ聲明サ
レマシタノデアリマス、以上、特別委員會
ノ經過ヲ御報告申上ゲマス
○副議長(公府近衛文磨君) 本案ノ第二讀
會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
○副議長(公府近衛文磨君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長吉君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 直チニ第二讀會ヲ開キマス、全部原案ニ御異議存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長吉君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ノ決議通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 日程第四、關稅定率法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長男爵東郷安君

關稅定率法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和六年三月二十四日

委員長 男爵東郷 安

貴族院議長公爵徳川家達殿

(男爵東郷安君演壇ニ登ル)

○男爵東郷安君 只今議題トナリマシタ關稅定率法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ木材及人造絹ニ關スル二ツノ項目ヲ含シテ居リマス、委員會ハ昨午マデ前後三回ニ互リマシテ開催イタシマシタ、委員會ニ於テ現レマシタ質疑應答ノ大要ヲ茲ニ御紹介申上ゲマス、先づ木材ニ付キマシテハ、今回木材關稅ノ引上ヲセラルル其理由如何ト云フ點デアリマス、之ニ付キマシテ政府ハ先般當議場ニ於テ説明セラレマシタコトヲ、敷衍シテ次ノ如ク説明セラレマシタ、昭和四年ノ關稅改正以來、大體ニ於テ木材ノ輸入ヲ調節シ得タ感ガアリマスルケレドモ、其當時課稅セザリシ、即チ稅率ノ方面カラ申シマスルト、己ノ四ニ屬シマスル所謂沿海州材等ハ無稅又ハ低稅デアリマシタガ爲ニ、其後ノ實績ニ依リマスルト、頗ル其輸入ヲ増加シ、爲ニ内地ノ樺太及北海道産ノ木材ニ壓迫ヲ加ヘル虞ガアル、元來此種ノ材種ハ從來ハ「バルブ」ノ原料、輸出箱材ノ原料ニ使用サレタノデアリマスルケレドモ、最近ノ市場ノ模様ヲ見テ居リマスルト、沿海州ノ紅松米國カラ入リテ參リマスル「ノーブルファ」ノ種類ハ下級デアリマスルガ、造作トカ建具ノ用材ニ使ハレ、「ノーブルファ」ノ如キハ建築用材ニ使ハレト云フヤウナ有様デアリ、ソレデアリマスルカラ、此機會ニ於テ是ガ稅率ヲ適當ニ改正シマシテ、本邦ノ林業ヲ保護スルコトモ一策デアルト考ヘル、而シテ其稅率ノ程度ハ己ノ三ニ屬シマスル所ノ材種ト比較イタシマシテ、約一割七分程度ノ課稅ヲシタナラバ宜カラウ、斯ウ云フコトデ本案ヲ提出シタト云フ御答デアリマシタ、木材ニ關シマシテハ、此程度ノ質問デ終リテ居リマス、次ハ人絹ニ關スル問題デアリマス、第一ノ質問ハ、何故今回突如トシテ著シク稅率ヲ引下ゲラレタノデアルカ、其理由如何、殊ニ其數字の根據ハ何處ニアルノデアルカ、斯ウ云フ質問

デアリマス、ソレニ關シマシテ政府當局ノ答辯ハ、先づ數字のニ申シマスルナラバ、現今内地ニ於キマスル主ナル人絹製造會社ノ生産費ノ原價ヲ平均シテ見ルナラバ、百「ポンド」ニ付テ百八圓、而シテ之ニ種ナル銷却、若クハ資本利子ヲ加ヘマスルト云フ「百ポンド」ニ付テ百三十六圓ト云フ數字ガ出ル、而シテ「面」只今問題ニナラデ居リマスル伊太利カラ參リマスル最モ低廉ナル絲ノ値段ハ、諸掛リヲ加ヘマシテ七十九圓五十錢、差引茲ニ五十六圓五十錢ト云フ數字ガ出テ參リマシテ、百斤ニ付テ七十四圓強、即チ之ヲ繰上ゲマシテ七十五圓ニ査定イタシマシテ、ソレデ今回ノ稅率ヲ盛ツタ、斯ウ云フ説明デアリマス、ソコデ第二ノ質問ハ、若シ現存スル人絹諸會社ノ諸生産費ヲ平均シテ出スト云フナラバ、之ニ付テハ相當考慮ヲ要スルコトガアリハシナイカ、一體化學工業ノ進歩發達ト云フモノハ頗ル著シイモノデアリ、殊ニ人絹ニ於テ最モ甚ダシイモノ申シテ差支ヘナイデヤナイカ、然ラバ世界ノ進歩發達ニ應ズル爲ニ、此平均ノ生産費ヲ算出スルト云フコトニ付テハ如何ナモデアルカ、寧ロ最モ會社ノ内容ノ優良ナルモノ、即チ生産費トシテハ最低ノモノヲ標準トシ、即チ平均生産費ト最低生産費トノ間ヲ押ヘテ考ヘル方ガ、寧ロ將來ノ輸入ニ對スル對策トシテハ適當デハナカラウカ、斯ウ云フ質問デアリマシタ、併ナガラ政府ニ於キマシテハ、ソレハ一應理窟トシテハ御尤モデアルケレドモ、今日我國ニ於ケル從來ノ人絹業者ノ成績ヲ見マスルト、遺憾ナガラマダ其基礎鞏固ナラザルモノガアル、仍テ團體會社ニ對シテモ相當ノ考慮ヲ拂フ必要ガアル、今回斯カル理由ニ依リマシテ已ムヲ得ズ平均生産費ト云フモノヲ押ヘテ居ルノデアルカ、御趣意ノ點ハ十分諒トシテ將來相當考ヘル、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、次ニ問題ニナリマシタノハ世間ニ今日ヤカマシク申シテ居リマスル、人絹ノ

保稅工場ニ關スル問題デアリマス、政府ハ衆議院ガ本案ヲ通過スルニ方リマシテ、附帶決議トシテ羅列イタシマシタ、アノ人絹ニ對スル所見ヲ何ト御覽ニナルノデアルカ、又本改正案ハ一體稅率其モノヲ動カスト云フコトガ目的デアルノカ、ソレトモ今回ノ保稅工場ニ關マシテ居ル此問題ヲ解決スルカ從デアルカ、斯ウ云フ質問モアリマシタ、又保稅工場ノ存置ハ今日ノ人絹製造界ハ勿論、之ガ販路ノ上ニ於テ如何ナル弊害ガアルノデアルカ、其實情ヲ話シテ貰ヒタイ、又保稅倉庫ノ中ニハ現ニ三ツバカリ染料ヲ取扱、テ居ル會社ガアルデヤナイカ、即チ人絹ニ染料ヲ加ヘテ輸出織物トシテ居ル工場ガアルデヤナイカ、之ニ對シテ内外ノ間ニ、内外即チ保稅工場ト然ラザルモノトノ間ハ、色ハ負擔ノ均衡ヲ失スル虞レガアルガハ如何デアルカ、サウ云フヤウナ質問ニ對シマシテ政府側ノ答辯ヲ纏メテ申上ゲマス、ソレハ現在ノ如ク保稅工場ヲ制限ナク許シタナラバ、是ハ明ニ内地人絹ヲ使ヒ、内地織物工場ニ於テ製造スル輸出織物トノ間ニ、種々ナル均衡ヲ失スルノデアル、殊ニ外國市場ニ於キマシテ此安ク出來タ輸出織物、即チ保稅工場ヲ經テ輸出サレタモノハ、外國市場ニ於テ内國産ノ織物ニ對シテ頗ル脅威ヲ與ヘ、其市價ヲ攪亂スル虞ガアル、現ニ其事象ガ幾ラモアルノデアル、カルガ故ニ此點ニ付テハ當業者ハ勿論、政府トシテモ相當ノ考慮ヲ要スルノデアル、ソコデ次ニ起リマシタ問題ハ、成程ソレニ困リマシテ當業者トシテ不利益ヲ受ケ、又衆議院トシテ憂慮ノ餘リ、之ニ對スル希望決議ヲ附ケラレタコトハ尤モデアル、併ナガラアノ決議案ヲ讀シテ見マスルト云フト、新設及ビ擴張ニ對シテハ相當、否寧ロ禁止の態度ヲ執、テ貰ヒタイ、又然ラズトモ現存ノ保稅工場ニ對シテハ嚴重ナル取締ヲヤッテ

實ヒタイ、斯ウ云フ希望アリマス、又一部ノ論者、殊ニ人絹製造業者ノ立場カラハ猛烈ナル要求ガアツテ、更ニ進シテソレノミ止マラズ、保稅工場法ヲモ改正シテ、全然禁止のナ、壓迫のナ態度ヲ將來執テ實ヒタイ、斯ウ云フ要望ガアル、是ハ甚ダ行過ギタモノデハナカラウカ、政府ノ所見ハ果シテ如何デアルカ、デ政府ハソレニ對シマシテ、固ヨリ今日ノ種々ナル貿易上ノ經緯ハ憂慮スルコトハ當然デアルガ、既設ノモノニ對シテ今俄ニ之ヲ左右スルコト云フコトハ、是ハ大ニ考ヘナケレバナラヌ問題デアル、固ヨリ衆議院ノ意向ヲモ參酌ハスルケレドモ、是ハ頗ル複雑ナル問題デモアルシ、今後内外ノ事情ニ處シテ善處スル積リデアル、斯ウ云フ御答辯デアリマス、更ニ質問者ハ、一體衆議院ガ希望セラルルガ如ク、又世間、殊ニ人絹製造業者側ノ人ミガ猛烈ニ希望スルガ如ク、將來保稅工場ニ對シテ壓迫のナ、禁止のナ態度ヲ執ル結果、先年「ジュネーヴ」ノ國際經濟會議ニ於キマシテ、締結セラレタル通商上ニ關スル主義ニ基キテ發布セラレタ、即チ昨年ノ七月ニ發布セラレマシタ所ノ國際貿易市場ニ輸出輸入ノ制限禁止等ニ關スル條約及ビ之ガ附帶ノ議定書ノ精神ニ悖ル處ナキヤ如何、斯ウ云フ質問デアリマス、當局ニ於テハ此條約ノ第一條、第三條第四條及ビ是ノ補足議定書等ヲ解釋セラレテ、輸入及ビ輸出ノ制限、若クハ禁止ト云フコトデアルカラシテ、必シモ左様ナ憂ヒハナイト信ズル、斯ウ云フ御答辯デアリマス、之ニ對シテソレハ一應文理解のナ、表面のナ解釋デハナカラウカ、今後若シ衆議院ノ如ク、若クハ一部保稅工場反對論者ノ如ク、種々ナル壓迫のナ、禁止のナ態度ヲ執ルニ於テハ、此制度ノ運用上、必ズ國際紛擾ヲ起ス虞ガアルト思フ、是ハ政府ニ於テハ今後十分此條約ノ解釋ヲ究メラレテ、宜シク善處セラレムコトヲ希望スルト云フヤウナ意味デアリマシタ、ソ

コデ質問ヲ終リマシテ討論ニ移ラノデアリマス、一委員ヨリ意見ノ開陳ガゴザイマシタ、ソレハ今同ノ人絹ニ關スル改正案ハ、讀ンデ見レバ單一行、即チ簡單ニ稅率ヲ百二十五圓ヨリ毎百斤七十五圓ニ引下グルト云フコトデアルカノ如ク見エケレドモ此關稅改正ノ意味及ビ其影響若クハ過デ之ガ基ヲ所ノ國家ノ産業政策ト云フコトニ思ヒラ及ボスナラバ、相當ニハ重大ナルモノデアル、即チ人造絹絲其ノバカリデナク、之ヲ加工シテ之ヲ原料トシテ生産スル所ノ輸出織物ニモ關係ガアル、又此輸出織物ガ出テ行ク所ノ外國市場ニモ關係ガアル、即チ單リ内地ノ產物バカリデナク、廣ク内外ノ市場ニ互ニテ之ヲ考ヘテ見ナケレバナラヌシ、今日想像シ得ル色ニナ場合ヲモ考慮シテ、此稅率ノ問題ヲ解決シナケレバナラヌノデヤナイカト思ハレル、デ元來此輸出織物ニ使用スル絲ノ内地相場ト云フモノハ、其輸出織物ガ外國市場ニ於テ勝チ得ル市價ニ依ッテ、逆ニ内地ノ市場ヲ支配スルモノデアル、デヤリマスルカラシテ、此問題モ此見地カラシテ矢張り判斷シナケレバナラヌデヤナイカト云フヤウナコトヲ前提トセラレマシテ、更ニ進ンデ一部論者ノ議論、即チ製造業者ノ意見ヲ聽イテ居レバ、如何ニモ保稅工場ト云フモノハ今日不都合極マルモノデアル、之ヲ撲滅スルト云フコトハ焦眉ノ急デアル、斯ウ云フ風ニ聲ヲ大ニシテ申サレケレドモ、ソレハ或ハ一部金融資本ノ代表者ノ言ヲ誇大ニシタルモノニ傾聴シ過ギル嫌ヒハナカラウカ、暫ク保稅工場ガ何故ニ存置スル價值ガアリ、意味ガアルカト云フコトニ付テ以下述ベテ見タイ、斯ウ云フ意味デアリマシタ、ソレハ保稅工場ガ、今日福井地方等ニアリマス所以ノモノハ、一面ニ於テハ内地人絹ト外國人絹トノ市價ノ均衡ヲ保チ、其間ニ然レバ價格ノ調節ガ出來テ居ルト云フ、此作用ヲ閑却スルコトハ、出來ナイデヤナイカ又等シク輸入

人絹ト稱シテ居リマシテモ、今日ノ科學ノ進歩ニ依リマシテ其品質、其用途ニ於テハ種々ナル差等ガアルノデアル、現ニ外國ノ製品ニ種々ナルモノガアツテ、ソレガ輸入サレテ居ル、即チ内地ニ於テ產出セザルモノモアルノデアル、此品ヲ入レテ、是ト内地ノ產出スル所ノ人絹トヲ混雜シテ、又貿易ノ需要ニ應ズルト云フ場合モ想像出來ルシ、現ニ其事象ガアルデハナイカ、又一部少數ノ者、即チ内地ノ人絹業者ハ今日目前ニ現ハレテ居ル伊太利ノ安イ絲ノミノ輸入ヲ目シテ、頗ル聲ヲ大ニシテ騒イデ居リ、又政府當局モ甚シク之ニ對シテ狼狽ヲシテ、何等マデ定見ガナカッタ結果、周章テ是ガ稅制ノ改革ヲセラルルト云フコトハ、甚シク不見識デハナカラウカ、即チ現ニ許サレテ居ル六ツノ保稅工場ノ中ニモ伊太利ノ如ク價格ガ安ナハナク、其品質モ是ヨリモ遙カニ優良ナモノヲ輸入シテ、之ニ加工シテ、輸出織物トシテ出シテ居ルモノガアルデヤナイカ、即チ保稅工場ノ設置ノ本然ノ使命ヲ全フシテ居ル、極メテ意義ノアル正當ナル工場ガアル、之ヲシモ伊太利ノ「ダンピング」ノ絲ヲ入レテ、工作シテ居ル所ノ保稅工場ト同一視シテ論ズルト云フコトハ、果シテ如何デアルカ、若シ之ヲ強調スルコトニ於テハ世ノ中ヲ瞞著スルモ甚シイモノデハナカラウカ、斯ウ云フ意味デアリマシタ、假ニ一歩ヲ讓ッテ現存ノ保稅工場ヲ合法的ニ制限シ、禁止シ得ルト假定イタシマシテモ、其結果ハ如何デアリマスカ、今日マデ我々ガ明力ニ遭遇シテ居ル同ジヤウナ場合ヲ直ニ茲ニ御紹介スルコトガ出來ルデヤナイカ、ソレハ綿絲ト綿布トノ關係デアル、我國ニ於テ著シク高率ノ關稅ヲ以テ太絲ニ課稅ヲ致シマシタ結果、今日我國ニ於ケル太絲ヲ加工スル所ノ綿布工場ノ形勢ハ如何デアルカ、而シテ支那ニ於ケル此種工業ノ生産品ガ今ヤ逆ニ我國ニ殺到シテ來テ居ル位デハナイカ、現ニ商工省ノ最近

ニ御取扱ヒニナツタ所ノ綿三綾ノ保稅工場ニ關スル問題ハ何ヲ物語テ居ルカ、斯ウ云フ譯デアリマス、斯様ニ考ヘテ來レバ此問題ハ單ニ絲其モノノ問題デハナイ、結局廣ク遠ク大キク考ヘテ見レバ、絲カラ之ニ加工シタ織物、而シテ之ヲ輸出スル所ノ外國市場、是ダケヲ全部系統的ニ考ヘ、而シテ其間ニ日本ノ各種ノ關係業者ガ、其利害ガ互ニ相共通スル共存共榮ト云フコトヲ目標トシテ行カナケレバナラヌ、只今ノ保稅工場ノ利益ト、ソレカラ人絹製造業者トノ利益トガ互ニ相一致セズ、矛盾ノ形ニアルト云フコトハ、此最モ將來アル所ノ我國ノ化學工業ノ進展ニ對シテ、唯一ツノ小波瀾ト目スベキモノデアツテ、モットハ我々ハ遠大ナル考ヲ以テ此問題ヲ處理スル必要ガアルト思フ、又轉ジテ一部論者ノ如ク、極端ニ保稅工場ニ對スル壓迫ヲ現出シ得テ、保稅倉庫ノ此種ノ事業ニ關シテノ趣旨ガ減却サレタト假定シタナラバ、我國ノ關稅制度ノ中デ他ニ之ニ代ルベキ、若クハ之ニ類似スルヤウナコトニ於テ拔ケテアルカモ知レナイ、此事ニ付テ當業者ナリ當局者ハ如何ニ考ヘテ居ラレルカ、私共ハ誠ニ當局モ當業者モ甚ダ迂闊千萬デアルト思ハレルガ、是ハ如何、斯ウ云フヤウナ意味デアリマシタ、之ヲ要スルニ人絹ノ工業ハ非常ニ化學進歩ノ發達ニ影響ヲ受ケルモノデアリマスルカラ、將來益々品質ガ優良デアリ、高級ナモノ、サウシテ價モ亦安イモノノ出現シナイト云フコトハ保シ難イノデアリマス、我國ニ於ケル如ク、今日「ビスコース」氏ノ方法ヲ以テヤツテ居ル會社ガ大多數ヲ占メ、僅ニ銅「アンモニア」ノ製造方法ニ依ッテヤル會社ガ頭ヲ出シテ居ルト云フ程度ニ於テ、此事バカリヲ考ヘルベキモノデハナイ、現ニ獨逸ニ於テハ更ニモット優良ナ製品ガ出デツツアルデハナイカ、ソレデアルカラ單ニ今ノ問題ノミヲ取扱テ、將來直グ次ニ來ルベキ所ノ重要ナ問題ヲ閑却シテ、

此問題ヲ考ヘルト云フコトモ甚ダ考ヘベキモノデハナカラウカト云フヤウナ意見デアッタノデアリマス、又若シ左様ナ見地カラ申シマスルナラバ、此人絹ト云フモノハ單リ我國ニ於ケル重要ナル化學工業ノ產物デアリトミナラズ、世界ニ於ケル所謂世界貿易品ノ重要ナルモノ一ツトシテ數ヘラレベキモノデアル、而シテ此人絹ニ付テハ各國ヲ通ジテ絶大ナル威力ヲ揮フテ居ル所ノ「カルテル」ノ存在ヲ忘レルコトハ出來ナイデハサイカ、而シテ獨逸ノ「カルテル」ヲ通ジテ世界各國ニ及ンデ居ル其威力ト云フモノヲ見ナケレバナラズ、又退イテ我國ニ於テダケ考ヘテ見マシテモ、各會社ニ於テハ外國資本ノ系統ハ如何デアルカ、又之ニ拂テ居ル莫大ナル特許料ノ如キモノハ如何デアルカ、色々考ヘテ來レバ此問題ノ及ボス所、考フベキ所ハ深ク且大デナケレバナラズ、故ニ唯今日ノホンノ國內ノ聲ヒノミヲ押ヘテ、是ガ對策ヲ講ズルノデハ十分デナイ、只今會期切迫ノ際デアルカラ、最早ニ付テ政府ト長ク論議スル機會ヲ持タナイカラ、政府ニ於テハ此案ヲ我々ガ可決シタラバ、今後引續キ我國ノ人絹國策ト云フモノニ付テ、十分考慮セラレンコトヲ希望シテ原案ニ贊成ノ意ヲ表スル、斯ウ云フ意味デアリマシタ、ソコデ次ニ他ノ委員ヨリ自分モ亦政府ノ原案ニ付テハ同意ヲ表シタイ、ソコデ茲ニ一ツノ希望決議ヲ附シタイト云フコトデ、採決ノ結果全會一致ヲ以テ本案ヲ可決イタシマシタ次第デアリマス、終リニ其希望決議ノ文章ヲ御紹介申上ゲマス

政府ハ人造絹糸ノ内地生産及ビ人造絹織物輸出ノ狀況ニ照シ且ツ今同關稅定率法改正ノ趣旨ニ鑑ミ將來宜シク適當ニ人造絹織物業者ノ保稅工場ヲ整理スルト共ニ速ニ現行保稅工場法ヲ改正シ重要輸出品ノ内地生産ニ對スル壓迫ヲ一掃センコトヲ期スベシ、尙ホ木材輸入稅其他一般ノ關稅率ニ付テモ現行關稅定率ハ去ル大正

十五年一般的ノ改正ヲ加ヘラレタル儘其後一部僅少ノ改正ヲ爲シ今日ニ及ベリ然ルニ今ヤ當時ニ比シ本邦始メ海外ノ産業狀況ハ著シク發達シ生産量ノ増加生産費ノ低減實ニ顯著ナルモノアルニ加ヘ更ニ我國ニ於テハ金解禁ノ結果對外爲替關係ノ急變ヲ來シタルヲ以テ現行定率ハ既ニ制定當時ノ趣旨ニ副ハザルモノ少カラズ仍テ政府ハ速ニ總括的改正ノ案ヲ立テ關稅率ノ合理化ヲ期スルト共ニ本邦産業ノ基礎ヲ確立スベシ

以上ヲ以テ私ノ報告ヲ終リマス
○副議長(公署近衛文憲君) 長尾元太郎君
○長尾元太郎君 十七八分掛ルト思ヒマスガ如何デゴザイマセウ
○副議長(公署近衛文憲君) 宜シウゴザイマス
〔長尾元太郎君演壇ニ登ル〕
○長尾元太郎君 只今上程ニナリマシタ政府提出ノ關稅定率法中改正法律案ニ關聯イタシマシテ、山村住民救済ノ意味ニ於キマシテ、木材關稅ノ引上方法竝ニ其他數點ニ付テ農林大臣竝ニ大藏大臣ニ御尋ね致シタイノデアリマス、併ナガラ今日ハ農林大臣ノ御出席ヲ御願ヒシテ置キマシタガ御出デニナテ居ラヌヤウニ考ヘマス、只今議長ニ伺ヒマシタカラ大臣ハ御差支ノヤウデアリマス、會期切迫ノ際デアリマスカラ、農林省ノ政府委員ガ御出デニナテ居リマスカラ、ソレカラ御答ヲ願フコトニ致シマス、會期ガ最終日ノ今日、極メテ貴重ナル時ニ於キマシテ其質問ノ趣旨ハ極メテ簡單ニ茲ニ申述ベマシテ、僅カ十七八分御清聽ヲ御願イタス次第デアリマス、此本案ヲ拜見シマスニ、木材關稅ノ改正ハ僅カ外材ノ數種ニ止リマシテ、只今委員長カラ報告セラレマシタ如ク、此議案ニアリマス通りニ、目下下落シマシタ内地木材ノ市價ヲ緩和スルニハ極メテ微弱ト思ヒマスカラ、以下私ノ伺ヒマス理由ヲ申述ベマシテ後、數點ニ

付テ御尋ね致ス次第デアリマス、一昨年来ノ財界ノ不景氣ハ昨年ニ入リマシテ一層其度ヲ加ヘマシテ、極メテ深刻ニ陥タリデアリマス、都會田舎ノ區別ナク、資産家勞働者、地主、小作人ノ別ナク、貧富ノ別ナク、總テノ階級、總テノ地方ニ於キマシテ此不景氣ノ風ハ吹荒レデ餘ス所ナク見舞ウタノデアリマス、ソレガ爲ニ我ガ國民ノ昨年以來ニ於テ生活ノ困難ト其窮狀ヲ訴ヘル聲ガ、各地ニ充滿イタシマシタノハ皆御承知ノ通りデアリマス、故ニ之ガ救済ノ對策ヲ行フト云フコトハ目下ノ急務デアリマス、政府モ此ニ見ル所ガアリマシテ、昨年以来種々ノ救済法ヲ講ゼテレタルコトニ對シテハ其效果ノ如何、其方法ノ可否ハ暫ク措キマシテ、其御趣旨ニ付テハ感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス、其不景氣ノ原因ニ付キマシテハ種々當春以來本議場ニ於テモ論議セラレタ所デアリマスルガ、其不景氣ノ襲來ノ爲ニ政府ノ救済法モ直ニ效ヲ奏スル能ハザリシハ、實ニ遺憾ノ次第デアリマシテ、即チ政府ハ生絲相場ガ大下落ノ際ニハ生絲補償案ヲ以テシ、又失業業者ガ續出スレバ之ガ對策ヲ圖ラレ、米價下落ニ付テハ米穀法ヲ改正シテ之ガ調節ヲ圖リ、銀行資金ノ融通停滯ニ對シマシテハ、抵當證券法ヲ以テ不動産資金化ヲ圖ル等、ソレノ各方面ニ向テ政府ニ於テハ之ガ救済對策ヲ施サレマシテ、又之ヲ爲サントシツツアルノデアリマス、併ナガラ山村住民ノ救済ノ方法ニ至リマシテハ、初メテ本日本木材ノ一部分ノ關稅引上ヲ圖ラレタ外ハ、山村住民竝ニ山林業者ノ救済ニ付テ考慮セラレザルノ觀ガアルノデアリマス、是ハ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス、山村ニ住スル人民ハ極メテ質朴デアリマシテ、何事モ控ヘ目デアリマスガ故ニ、他ヨリ率先シテ救済出願ノ策ヲ講ズル等ノ勇氣モ乏シクアリマシテ、又其窮狀ヲ各方面ニ訴ヘ出ルト云フコトガ少イ爲ニ、政府當局其他各方面ノ識者

ニ於キマシテモ願ミラレコトガ少イノデアリマス、然ルニ關東大震災災後、外材ノ輸入ガ激増イタシマシテ内地ノ木材ハ極度ニ壓迫ヲ受ケツツアル折柄、此大不景氣ノ襲來ノ爲ニ逐年材價ハ低落イタシマシテ、現今ノ市價ハ七八年前ノ價ニ比ベマス、約五分ノ一ホドニ達シテ居ルノデアリマス、故ニ山村住民ハ疲弊困憊ノ極ニ沈淪イタシマシテ、前ニ述ベマシタ各階級ヲ超越イタシマシテ、其窮狀ハ最モ甚シキモノデアリマス、一日モ之ガ救済ヲ打棄テ置クコトヲ許サナイノデアリマス、果セルカナ、全國三千有餘ノ山村住民ノ各代表者ヨリ、之ガ救済ノ請願書ヲ本議院ニモ提出ニナテ居リマス、極メテ質朴ナル山村ノ住民ト雖モ生活ノ窮狀ハ已マ得ザル結果、斯様ナ御願ヲ致シタコトト存ジマス、又衆議院ニ於キマシテハ山村救済、且ツ山村住民ニ關スル建議案ガ多數提出セラレテ居ルト云フコトデアリマス、今ニシテ之ガ救済ノ途ヲ徹底的ニ講ゼザル時ハ、山村ハ全滅ノ狀態トナリマシテ、山林事業ハ益々衰退ヲ來シマス、山林植樹伐採ノ均衡ヲ失スルコトガ甚シクナリマシテ、遂ニハ我ガ國土ノ殆ド六割以上ヲ占メテ居ル所ノ此山林地帶ヲ荒廢セシメマシテ、或ハ洪水ノ氾濫ヲ頻發シ、又水源地ヲ涸渴セシメマシテ、以テ都會ノミナラズ全國デ使用シテ居ル所ノ發電水力及灌漑用水ニ不足ヲ來シマシテ、延イテハ國民一般ノ經濟ノ萎微ヲ益々深刻ニ導クト云フコトハ、識者ヲ俟タズシテ明カナノデアリマス、後日ニ至リマシテ之ガ回復ヲ圖ラムト致シマシテモ最早不可能ニ陥ルノデアリマス、之ヲ思ヘバ國家經濟上ノ根幹ヲナシテ居ル所ノ林業政策上、誠ニ憂慮、寒心ニ堪ヘナイ次第デアリマス、以上申述ベマシタ如ク、山村ノ窮狀ハ片時モ拱手傍觀シテ居ルコトヲ許サザル現狀デアルノデアリマス、今盛ニ叫バレツツアル所ノ農村ノ救済ト相俟シテ、共ニ山村救済ノ方法ハ目下

ニ於キマシテモ願ミラレコトガ少イノデアリマス、然ルニ關東大震災災後、外材ノ輸入ガ激増イタシマシテ内地ノ木材ハ極度ニ壓迫ヲ受ケツツアル折柄、此大不景氣ノ襲來ノ爲ニ逐年材價ハ低落イタシマシテ、現今ノ市價ハ七八年前ノ價ニ比ベマス、約五分ノ一ホドニ達シテ居ルノデアリマス、故ニ山村住民ハ疲弊困憊ノ極ニ沈淪イタシマシテ、前ニ述ベマシタ各階級ヲ超越イタシマシテ、其窮狀ハ最モ甚シキモノデアリマス、一日モ之ガ救済ヲ打棄テ置クコトヲ許サナイノデアリマス、果セルカナ、全國三千有餘ノ山村住民ノ各代表者ヨリ、之ガ救済ノ請願書ヲ本議院ニモ提出ニナテ居リマス、極メテ質朴ナル山村ノ住民ト雖モ生活ノ窮狀ハ已マ得ザル結果、斯様ナ御願ヲ致シタコトト存ジマス、又衆議院ニ於キマシテハ山村救済、且ツ山村住民ニ關スル建議案ガ多數提出セラレテ居ルト云フコトデアリマス、今ニシテ之ガ救済ノ途ヲ徹底的ニ講ゼザル時ハ、山村ハ全滅ノ狀態トナリマシテ、山林事業ハ益々衰退ヲ來シマス、山林植樹伐採ノ均衡ヲ失スルコトガ甚シクナリマシテ、遂ニハ我ガ國土ノ殆ド六割以上ヲ占メテ居ル所ノ此山林地帶ヲ荒廢セシメマシテ、或ハ洪水ノ氾濫ヲ頻發シ、又水源地ヲ涸渴セシメマシテ、以テ都會ノミナラズ全國デ使用シテ居ル所ノ發電水力及灌漑用水ニ不足ヲ來シマシテ、延イテハ國民一般ノ經濟ノ萎微ヲ益々深刻ニ導クト云フコトハ、識者ヲ俟タズシテ明カナノデアリマス、後日ニ至リマシテ之ガ回復ヲ圖ラムト致シマシテモ最早不可能ニ陥ルノデアリマス、之ヲ思ヘバ國家經濟上ノ根幹ヲナシテ居ル所ノ林業政策上、誠ニ憂慮、寒心ニ堪ヘナイ次第デアリマス、以上申述ベマシタ如ク、山村ノ窮狀ハ片時モ拱手傍觀シテ居ルコトヲ許サザル現狀デアルノデアリマス、今盛ニ叫バレツツアル所ノ農村ノ救済ト相俟シテ、共ニ山村救済ノ方法ハ目下

政府ニ於テ取ルベキ所ノ最大急務ノ一デア
ルト信ジテ疑ハナイノデアリマス、故ニ
此意味ニ於キマシテ之ガ救済ノ方法ニ付テ、
關係政府當局ニ御尋ネシタイコトハ左ノ六
點デアリマス、第一ニハ只今提案ニナッテ居
リマス關稅率ノ引上ハ、前申上ゲマシタ
如ク、外材ノ一部ノミニ關係シテ居リマス
カラ、此低落シテ居ル内地材ノ市價ヲ緩和
スル效ニ於テ少イト存ジマス、故ニ總テノ
外國ヨリ輸入セラレル木材ニ對シテ、只今
委員長ノ報告セラレマシタ附帶決議ニモア
リマシタ如ク、關稅ヲ改正シ或ハ稅率ヲ上
ゲ、以テ内地產ノ材價ヲ調節サレルノ御意
思ハアリマセスカ、第二ニ御尋ネスルノハ
現今政府ノ御執リニナッテ、居リ且ツ唱道セラ
レテ居ル所ノ國產獎勵ノ意味ニ於キマシテ、
内地材使用ヲ獎勵セラレマシテ、其第一
手段ト致シマシテ、先ヅ官行建築ノ用材ハ
内地材ヲ使用イタサレマシテ、一般國民ニ
國產品使用ノ模範ヲ示サルノ御意思ハア
リマセスカ、第三ニハ國有林ノ伐採ヲ相當
制限セラレマシテ、山村住民ノ業ヲシテ、
其壓迫セラレテ居ルト考ヘマスルコトヨリ
免レシメ、以テ其保護ヲ加ヘラレル御考
ハゴザイマセスカ、第四ニ御尋ネシマス
コトハ、山林立木伐採ノ所得稅ヘ、ソレヲ伐
採シマシタ時ニ一時ニ納稅スルノデアリマ
スカラ、是ハ相當負擔ガ過重ニ失スルト考
ヘラレマスルガ故ニ、之ヲ相當輕減セラレ
ルノ御意思ハアリマセスカ、又第五ニ御尋
ネスルノハ内地ニ於キマシテ、木材鐵道運
賃ヲ低減セラレマシテ、木材ノ需要者ト共
ニ山林業者ノ救済ヲ圖ラレルノ御考ハナキ
ヤ、最後ニ御尋ネシマスノハ、昨年低利
資金ヲ山林業者ニ御貸出シニナリマシタケ
レドモ、其金額ガ甚ダ少額デアリマシテ、
需要者ノ需メニ應ズルコトガ出來ナカッ
タデアリマスルカラ、是ガ増額ヲ圖リ、尙
ホ廣イ意味ニ於キマシテ、例ヘバ林道ノミ
ナラズ植樹及山林低利資金ヲモ受ケ得ル途

ヲ開カレマシテ、相當植林ノ獎勵ヲ圖リ、
以テ林業國策ノ根本ヲ確立セラレルノ御意
思ハアリマセスカ、以上ノ六點デアリマス
ルガ、是ハ我國ノ林業國策上極メテ重大ナ
ル點デアルト思ヒマスルカラ、責任アル所
ノ農林大臣ノ御答辯ヲ承リタイト期待シテ
居リマス、デアリマスガ、如何セム、今日ハ最
終日デアリマシテ、又他ニ重要ナ委員會モ
開カレテ居ルノデアリマスカラ、御出席ナ
イト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマスルガ、
他日又速記録ヲ御覽下サイマシテ、適當ナ
ル機會ニ於テ農林大臣ノ御答ヲ得レバ満足
スル次第デアリマス、之ニ對シマシテ御出
席ノ當局ノ方カラ明細ナル且ツ山林ニ御同
情アル所ノ御答辯アラムコトヲ御願ヒ致ス
次第デアリマス

〔政府委員平熊友明君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平熊友明君) 山村住民ノ窮狀
ニ付キマシテハ、只今仰セノ如キ實狀ニア
リマスルコトハ誠ニ私共遺憾ト存ジテ居リ
マス、ソレニ付キマシテハ此救済ノ點ニ付
キマシテ種々考慮ヲ拂テ居ルノデゴザイ
マス、先ヅ其山村ノ振興ニ付キマシテハ、
御承知ノ如ク民有林ノ造林促進ナリ或ハ又
森林金融ノ方法ナリ、進ンデハ森林火災保
險ノコトニ付キマシテモ種々ノ努力ヲ拂
テ居ルノデゴザイマス、又荒廢ノ處レガ此
儘デアアルノデヤナイカト云フ御心配デゴ
ザイマシタガ、治水費ノ豫算ヲ以テマシテ、
治水上ノ重要ナル點ニ付キマシテハ相當ナ
ル補助ヲ與ヘテ、植林ノ獎勵ヲ致シテ居ル
ノデアリマス、サウ致シマシテ現狀ヲ見マ
スルト云フト、荒廢ノ處レノアルヤウナ伐
採ハ民間ニ於テモヤッテ居ラナイヤウニ觀
察シテ居ルノデアリマス、例ヘバ昭和三年
ニハ二千五百萬石伐テ居タモノガ、次ノ
年ニハ二千三百萬石、昭和五年ニ於キマシ
テハ、推定イタシマスト二千三百萬石、是位
ノ用心ヲシテ伐テ居ル實狀ヲ見テ居ルノ
デゴザイマスカラ、伐採ノ方ニ於キマシテ

モ又一方植林ノ獎勵ノ上カラ申シマシテ
モ、山林ガ濫伐セラレテ荒廢セラル、ニ至
ルト云フコトハ、今日ノ所ニ於テハ先ヅ發
見シナイト存ジテ居リマス、ソレカラ項目
ニ互テノ御意見デゴザイマシタガ、關稅
改正ノ關係ニ付キマシテハ、今回ノ改正ノ
趣旨ハ其當時提案ノ理由ノ中ニモ提案者カ
ラ述べタノデゴザイマスガ、其通りニ稅ノ
均衡ヲ得サセタイ、サウシテ理由ナクシテ
無稅若クハ低稅トナッテ居リマスルガ爲ニ、
之ニ關係シテ居リマスル所ノ林業者ガ謂ハ
レナク壓迫ヲ受ケテ居ル、ソレヲ緩和シ救
濟シタイ、斯ウ云フ考カラ、一部ノ引上ヲシ
タ譯デゴザイマス、無論之ニ依テ從來謂ハ
レナク受ケテ居リタ所ノ壓迫カラ救済サレ
ルト云フコトハ、山村民ニ對シテ一ツノ福
音デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、外材
全部ニ對シテ改正ノ意思ナキヤト云フコト
ニ付キマシテハ、方針ニ關スルコトデアリマ
スルガ、希望決議モゴザイマシタコトデア
リマス、尙ホ能ク考究シテ適當ナ方法ヲ考
ヘタイト存ジテ居リマス、ソレカラ國產獎勵
ノ關係ニ付キマシテノ御意見デゴザイマス
ガ、是ハ私共ノ方モ誠ニ御同感申上ゲテ居
ル點デアリマシテ、從來カラ種々ノ方法ヲ
以テ宣傳ヲ致シマシタリ、或ハ各府縣廳ニ
通牒ヲ出シマシテ、出來得ル限り此國產木
材ヲ使フヤウニシロ、又一方ニ於キマシテ
ハ、商工省ノ方ニ向ヒマシテ國產獎勵審查
會ノ議ニ付シテ、此内地材ヲ國產品ノ中
ニ入レテ獎勵品目ニシテ賣ヒタイト云フコ
トハ餘程強ク交渉シテ居ルノデアリマシ
テ、只今商工省ニ於キマシテモ相當審議中デ
アルト存ジテ居リマス、ソレカラ國有林ノ伐
採ヲ制限スル意思ナキヤト云フ御尋デゴザ
イマスガ、結論カラ申上ゲマス云フト、只
今ノ所デハ其意思ヲ持チマセヌノデアリマ
ス、ト申シマスルノハ國有林ハ御承知ノ通
リ、一定ノ施業案ニ依テ百年ノ長計ヲ樹
テテ居ルノデゴザイマスルカラ、一朝ニシ

テ之ヲ棄スト云フコトハ、計畫ニ於キマシ
テモ非常ナ齟齬ヲ來スノデアリマス、ノミナ
ラズ此國有林ノ伐採ヲ制限シタカラト言
テ、直チニ是ガ國民ノ爲ニ利益ニナルト云
フヤウニハ思ハレナイノデアリマス、早イ
話ガ此外材ガ從來隨分入テ參リマシタガ、
若シ此國有林ノ伐採ヲ制限イタシマシテ、
國有林カラ生産スル所ノ材ガ少クナッテ參
リマスル場合ニ於キマシテハ、折角今日米
材ハ餘程ノ勢ヲ以テ減ジテ居リマスニ拘ラ
ズ、私ハ却テ此木材ノ輸入ヲ喚起スヤウ
ナ因ヲナス虞レガアルノデアリナイカ、即チ
國有林ノ伐採ヲ制限シテ、外材ヲ迎ヘルト
云フ結果ニナルト云フコトヲ恐レルノデア
リマス、又國有林ノ伐採ヲ制限スルガ爲
ニ、施業案ヲ棄スト云フコトニナリマスル
ト云フト、却テ是ハ國有林ノ常ニ此施業案
ニ依テ健全ナル姿ヲ保持シテ行キタイト
云フ其本來ノ精神ヲ失テ、老齡ナル林木ガ
殘テ、其姿ハ甚ダ不健全ナル狀態ニナルト
云フ虞レガアルノデアリマスルカラ、只
今ノ所デハ此施業案ニ則テ仕事ヲ持續
シテ行キタイト云フ考ヲ持テ居ルノデア
リマス、所得稅ノ關係ハ大藏省ノ政府委員カラ
御答辯ニナルト存ジマスルカラ、私ハ申上
ゲマセヌ、鐵道運賃ノ低減ニ付キマシテモ、
誠ニ私ハ御同感申上ゲテ居ルノデアリマ
ス、鐵道ノ運賃ガ今日ニ於キマシテ、相當
長イ距離ニ於キマシテハ、枕木、枕角丸太ノ如
キモノハ幾ラカノ低減ニナッテ居リマスル
ケレドモ、或ル一定ノ距離以下ノ短イ距離
ニ於キマシテハ、却テ今長尾サンノ仰シヤ
ル通り低減サレテ居ナイヤウナ狀態ヲ呈シ
テ居リマス、之ニ付キマシテハ實ハ鐵道省
ノ方トモ交渉ヲ只今重ネテ居ルノデゴザイ
マス、低利資金ノ増額ノ意思ナキヤト云フ
御尋デゴザイマスガ、此間、失業救済ノ低利
資金トシテ出シマシタモノハ、山林關係ニ於テ
五百二十九萬圓ヲ出シテ居ルノデゴザイマ
ス、只今仰セニナリマシタ如ク、申込ハ是

レ以上ニアノコトハ事實デゴザイマスガ、又徒ラニ申込ノミニ因ハレテ多クノ金ヲ融通スルト云フコトハ、場合ニ依リマシテハ消化ガ困難ニナリマシテ、斯業ノ健全ナル發達ヲ害スル虞レモアル、ソコヲ考カラ、五百二十九萬圓ト云フ數字ヲ考ヘ出シタノデアリマス、將來増額スル意思ナキヤト云フコトニ付キマシテハ、此方法ニ依リマセヌデモ、平素、森林組合若クハ産業組合ヲ通ジマシテ貸シテ居ル所ノ金ガアリマス、此金ヲ申上ゲマスト云フト、最近ノ所ニ於キマシテハ、森林組合ニ貸シテ居リマスルモノガ、三百七十四萬圓ゴザイマス、併シ割當テマシタ金ガ四百六十七萬圓ダツタト記憶シテ居リマス、割當テタケハ幾ラカ消化サレナイデ、マダアルト云フ狀態デアリマスガ、尙ホ是ハ山林業者ノ仕事ノ進展ト共ニ、其要求ノ益、多クナラムコトヲ希望シテ居ルデアリマス、此低利資金ノ、其意味ニ於キマシテノ増額ニ於キマシテハ、出來ル限リ努力シテ、其希望ニ應ズルコトノ出來ルヤウニシタイト考ヘテ居リマス

○長尾元太郎君 簡單ニ此席カラ了解イタル難イ點ヲ二點御尋ネ致シタイト思ヒマス ○副議長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

○長尾元太郎君 大變食時間ヲ妨ゲマシテ甚ダ恐縮デアリマスガ、モウ一應御尋ネシタイ、只今山林局長カラノ御答辯ニハ我が山林地ハ荒廢スルヤウナ事ハナイコトニ考慮シテ居ルトノ仰セデアリマシタガ、一昨年丁度本議場ニ於キマシテ今ノ大臣トハ違ヒマスガ、前農林大臣ハ私ノ御尋ニ對シテ御答辯ニナリマシタ時、全國デ殆ド二十萬町歩ホドヲ今伐採シテ居ル、然ルニ之ニ對スル植林ハ七八萬町歩シカ出來ナイカラ、差引十何萬町歩ト云フモノノ開キガアル、此補植ガ出來ナイ、甚ダ是ハ考慮イタサネバナラヌカラ、之ニ付テハ十分對策ヲ立テテ考慮スルト云フ御話デアリマシタガ、其趣旨モ繼續シテ今日デモ補植セラレテ居リマスカドウカト云フコトニ付テ御尋ネシタイノデス、又前ノ御尋ニシマシタ中ノ大體ノ點ハ了解イタシマシタガ、官有林ノ伐採ヲ差控ヘルト云フコトハ年々計畫ガアルカラ、其方針ニ依テヤ、テ居ルカラ、是ハ同感シ兼ネルト云フ、斯ウ云フヤウナ御答デアリマシタガ、之ニ付キマシテ政府ノ山林伐採ノ收入ガ年々多少殖エテ行クヤウニ考ヘテ居リマス、サウシテ又伐採ノ量ハ同額ノ石數ヲ伐採セラレマシテモ、二三年前ノ價格ニ較ベマシテ非常ニ低下シテ居ル今日ノ狀態デアリマスカラ、如何ニシテモ此伐採ノ量ガ非常ニ殖エテ居ラナケレバ豫期ノ收入ガ得ラナイヤウニ考ヘマスガ、此點ニ付テ參考ニ御尋ネシテ見タイト思ヒマス、又最後ニ御答ノナカッタ點ニ付テ御尋ネシマスガ、低利資金ノ融通ニ付キマシテ、私ノ御尋ニハ山林業者ニ對シテ林道開發ニ對シテノミ御融通ユナツテ居ルヤウデアリマスガ、尙ホ之ヲ植樹資金又ハ山林手入ノ資金ニモ御貸シ下サルコトヲ許サレタ

ナラバ、此荒廢シテ行ク山林ヲ補植シ、且ツ林業者ノ救済並ニ獎勵ニ付テ大變效果ガアルト考ヘマシタカラ、此點ヲ御尋ネシマシタガ、此點ニ付テ御答ガナカッタヤウデアリマスカラ、是ダケ御尋ネシテ置キマス

○政府委員(平熊友明君) 前同二十萬町歩伐採シテ居ルガ、七萬町歩位シカ植エテ居ラナイカラ、造林促進ノ途ヲ圖ルノデアルト云フコトヲ前內閣ノ大臣ガ申シタガ、尙ホ其趣旨ハ繼續スルノカト云フ御質問デゴザイマス、其趣旨ハ繼續シテ參ル積リデ居リマス、又繼續シツツアルノデゴザイマス、只二十萬町歩伐採シテ七萬町歩シカ植エナイデハナイカト云フヤウナ數字ノミカラ見マスト云フト、如何ニモ十三萬町歩ト云フノガ伐採サレタ儘ニ殘サレルト云フ形ニナルノデゴザイマスガ、此七萬町歩ト云フノハ人工植植エル所ノ面積ヲ指サレタモノト考ヘマス、私ノ調ベマシタ所ニ依リマスト云フト、人工植植エテ居リマスルモノハ、最近ニ於テ一ヶ年……最近年度ニ於テ十萬町歩デアリマス、サウシテ天然ノ力ヲ借りテ造林シテ居リマスルモノガ十八萬町歩アリマスルカラ、合計イタシマスルト云フト人工、天然、加ヘテ二十八萬町歩、是ダケ造林サレテ居ルヤウニ私ノ調ベノ數字ガナツテ居ルノデアリマス、ソレカラ國有林ノ伐採ヲ年々増加シテ居ルデハナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、幾分ツツ増加イタシテ居リマス、併シソレハ數カラ申シマシテ、誠ニ九牛ノ一毛デアルノデアリマス、甚ダ御承知ノコトヲ申上ゲルヤウデ恐縮ニ堪ヘマセヌガ、國有林ノ施業案ノ關係カラ申シマスト云フト、先程申上ゲマシタヤウニ常ニ森林ヲ健全ナ姿ニ持續イタシマセヌケレバ、其森林ハ荒廢シテ行クノデアリマス、例ヘバ間伐ノ如キモノデモ之ヲヤラズニ置キマスト云フト、其森林ハ大變惡イ森林ニナツテ來ル、又間伐デナクトモ一定ノ計畫ノ

下ニ伐ルベキモノヲ伐テ參リマセスト云フト老廢シタル林木ガ殘ルト云フコトニナルノデアリマスカラ、永久ノ計ヲ考ヘマス

ト云フト、是ハ矢張り其計畫通りニ伐テ行クト云フコトガ眞ニ國家百年ノ大計ヲ爲ス所以デアルト考ヘル爲ニ、伐採ヲ制限スル意思ナシト御答ヘ申上ゲタ次第デアリマス、ソレカラ金融ノ關係デアリマスガ、森林組合ニ貸シテ居リマスル金ノ中ニハ、矢張り只今御意見ニナリマシタ通り、植樹ノ爲ニ其金ヲ使フコトモ認メテ融通シテ居リマスノデアリマス

○長尾元太郎君 略ボ了解イタシマシタ、ソコデ國稅關稅ノ改正、及ビ國產ノ獎勵、鐵道運賃ノ輕減、低利資金ノ融通等ニ付テ私ノ御尋ネニ付テ十分考慮スルト云フ御答デアリマシタカラ満足デゴザイマスガ、今日ハ大臣モ御出席ガナイノデ、此程度ニ私ノ質問ハ止メテ置ク次第デアリマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 午後二時マデ休憩イタシマス

午後一時三十分休憩

午後二時十六分開議

○副議長(公爵近衛文麿君) 書記官ヲシテ報告ヲ致サセマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス、日程第四、關稅定率法中

○政府委員(小川郷太郎君) 長尾君ノ御質問ノ中ニ山林所得ニ關聯シタモノガアリマス、ソレヲ極メテ簡單ニ御答ヘシテ置キマス、御承知ノ通り、山林所得ニ付キマシテハ現行所得稅法ニ於キマシテモ、稅率ノ適用ニ付キマシテ、特別ノ取扱ヲシテ居リマス、是ハ山林所得ノ特別ノ事情ヲ考慮イタシマシテ、成ルタケ負擔ノ重カラシメナイヤウニ考ヘタ次第デアリマス、尙ホ今日ノ現狀カラ致シマシテ、其所得稅ノ負擔ガ困難デアルト云フ御趣旨ハ拜承イタシマシタ、政府ハ此昭和六年度ニ於キマシテ、稅制整理調查會ヲ開キマシテ、全體ノ稅制ニ付キマシテ、立テ直シヲ考ヘテ居リマスカラシテ、何レ此山林所得ノ問題モ併セテ調査研究サレルトナルト考ヘマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

○長尾元太郎君 簡單ニ此席カラ了解イタル難イ點ヲ二點御尋ネ致シタイト思ヒマス ○副議長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

○長尾元太郎君 大變食時間ヲ妨ゲマシテ甚ダ恐縮デアリマスガ、モウ一應御尋ネシタイ、只今山林局長カラノ御答辯ニハ我が山林地ハ荒廢スルヤウナ事ハナイコトニ考慮シテ居ルトノ仰セデアリマシタガ、一昨年丁度本議場ニ於キマシテ今ノ大臣トハ違ヒマスガ、前農林大臣ハ私ノ御尋ニ對シテ御答辯ニナリマシタ時、全國デ殆ド二十萬町歩ホドヲ今伐採シテ居ル、然ルニ之ニ對スル植林ハ七八萬町歩シカ出來ナイカラ、差引十何萬町歩ト云フモノノ開キガアル、此補植ガ出來ナイ、甚ダ是ハ考慮イタサネバナラヌカラ、之ニ付テハ十分對策ヲ立テテ考慮スルト云フ御話デアリマシタガ、其趣旨モ繼續シテ今日デモ補植セラレテ居リマスカドウカト云フコトニ付テ御尋ネシタイノデス、又前ノ御尋ニシマシタ中ノ大體ノ點ハ了解イタシマシタガ、官有林ノ伐採ヲ差控ヘルト云フコトハ年々計畫ガアルカラ、其方針ニ依テヤ、テ居ルカラ、是ハ同感シ兼ネルト云フ、斯ウ云フヤウナ御答デアリマシタガ、之ニ付キマシテ政府ノ山林伐採ノ收入ガ年々多少殖エテ行クヤウニ考ヘテ居リマス、サウシテ又伐採ノ量ハ同額ノ石數ヲ伐採セラレマシテモ、二三年前ノ價格ニ較ベマシテ非常ニ低下シテ居ル今日ノ狀態デアリマスカラ、如何ニシテモ此伐採ノ量ガ非常ニ殖エテ居ラナケレバ豫期ノ收入ガ得ラナイヤウニ考ヘマスガ、此點ニ付テ參考ニ御尋ネシテ見タイト思ヒマス、又最後ニ御答ノナカッタ點ニ付テ御尋ネシマスガ、低利資金ノ融通ニ付キマシテ、私ノ御尋ニハ山林業者ニ對シテ林道開發ニ對シテノミ御融通ユナツテ居ルヤウデアリマスガ、尙ホ之ヲ植樹資金又ハ山林手入ノ資金ニモ御貸シ下サルコトヲ許サレタ

ナラバ、此荒廢シテ行ク山林ヲ補植シ、且ツ林業者ノ救済並ニ獎勵ニ付テ大變效果ガアルト考ヘマシタカラ、此點ヲ御尋ネシマシタガ、此點ニ付テ御答ガナカッタヤウデアリマスカラ、是ダケ御尋ネシテ置キマス

○政府委員(平熊友明君) 前同二十萬町歩伐採シテ居ルガ、七萬町歩位シカ植エテ居ラナイカラ、造林促進ノ途ヲ圖ルノデアルト云フコトヲ前內閣ノ大臣ガ申シタガ、尙ホ其趣旨ハ繼續スルノカト云フ御質問デゴザイマス、其趣旨ハ繼續シテ參ル積リデ居リマス、又繼續シツツアルノデゴザイマス、只二十萬町歩伐採シテ七萬町歩シカ植エナイデハナイカト云フヤウナ數字ノミカラ見マスト云フト、如何ニモ十三萬町歩ト云フノガ伐採サレタ儘ニ殘サレルト云フ形ニナルノデゴザイマスガ、此七萬町歩ト云フノハ人工植植エル所ノ面積ヲ指サレタモノト考ヘマス、私ノ調ベマシタ所ニ依リマスト云フト、人工植植エテ居リマスルモノハ、最近ニ於テ一ヶ年……最近年度ニ於テ十萬町歩デアリマス、サウシテ天然ノ力ヲ借りテ造林シテ居リマスルモノガ十八萬町歩アリマスルカラ、合計イタシマスルト云フト人工、天然、加ヘテ二十八萬町歩、是ダケ造林サレテ居ルヤウニ私ノ調ベノ數字ガナツテ居ルノデアリマス、ソレカラ國有林ノ伐採ヲ年々増加シテ居ルデハナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、幾分ツツ増加イタシテ居リマス、併シソレハ數カラ申シマシテ、誠ニ九牛ノ一毛デアルノデアリマス、甚ダ御承知ノコトヲ申上ゲルヤウデ恐縮ニ堪ヘマセヌガ、國有林ノ施業案ノ關係カラ申シマスト云フト、先程申上ゲマシタヤウニ常ニ森林ヲ健全ナ姿ニ持續イタシマセヌケレバ、其森林ハ荒廢シテ行クノデアリマス、例ヘバ間伐ノ如キモノデモ之ヲヤラズニ置キマスト云フト、其森林ハ大變惡イ森林ニナツテ來ル、又間伐デナクトモ一定ノ計畫ノ

下ニ伐ルベキモノヲ伐テ參リマセスト云フト老廢シタル林木ガ殘ルト云フコトニナルノデアリマスカラ、永久ノ計ヲ考ヘマス

ト云フト、是ハ矢張り其計畫通りニ伐テ行クト云フコトガ眞ニ國家百年ノ大計ヲ爲ス所以デアルト考ヘル爲ニ、伐採ヲ制限スル意思ナシト御答ヘ申上ゲタ次第デアリマス、ソレカラ金融ノ關係デアリマスガ、森林組合ニ貸シテ居リマスル金ノ中ニハ、矢張り只今御意見ニナリマシタ通り、植樹ノ爲ニ其金ヲ使フコトモ認メテ融通シテ居リマスノデアリマス

○長尾元太郎君 略ボ了解イタシマシタ、ソコデ國稅關稅ノ改正、及ビ國產ノ獎勵、鐵道運賃ノ輕減、低利資金ノ融通等ニ付テ私ノ御尋ネニ付テ十分考慮スルト云フ御答デアリマシタカラ満足デゴザイマスガ、今日ハ大臣モ御出席ガナイノデ、此程度ニ私ノ質問ハ止メテ置ク次第デアリマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 午後二時マデ休憩イタシマス

午後一時三十分休憩

午後二時十六分開議

○副議長(公爵近衛文麿君) 書記官ヲシテ報告ヲ致サセマス

改正法律案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議
ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第二讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 北西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 委員長報告通
リテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ノ決
議通りテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵清岡長言君 日程變更ノ緊急動議ヲ
提出イタシマス、即チ明治四十二年法律第
二十二號中改正法律案、違警罪即決例中改
正法律案ノ兩案ヲ、日程第五ノ前ニ上程シ
付議サレムコトヲ希望イタシマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 清岡子爵ノ動
議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵清岡長言君 日程變更ノ緊急動議ヲ
提出イタシマス、即チ明治四十二年法律第
二十二號中改正法律案、違警罪即決例中改
正法律案ノ兩案ヲ、日程第五ノ前ニ上程シ
付議サレムコトヲ希望イタシマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 清岡子爵ノ動
議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵清岡長言君 日程變更ノ緊急動議ヲ
提出イタシマス、即チ明治四十二年法律第
二十二號中改正法律案、違警罪即決例中改
正法律案ノ兩案ヲ、日程第五ノ前ニ上程シ
付議サレムコトヲ希望イタシマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 清岡子爵ノ動
議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 明治四十二年
法律第二十二號中改正法律案、政府提出、
衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、
應司公傳

明治四十二年法律第二十二號中改正法
律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和六年三月二十五日

委員長 公爵近衛文麿君 信輔

貴族院議長公爵近衛文麿君 登壇

〔公爵近衛文麿君 登壇〕

○公爵近衛文麿君 明治四十二年法律第二
十二號ノ立本ニ關スル件ニ改正法律案ニ付
テ、其審査ノ經過及ビ結果ヲ御報告申上
グマス、本法律案ハ三月十九日議決ヨリ委員
付託ニナリマシテ、三月二十日ニ五選ヲ致シ
マシテ、私が委員長安立綱之君が副委員長
ニ當選イタシマシタ、越エテ三月二十四日
並ニ二十五日ニ本件ニ關スル特別委員會ヲ
開キマシテ審議ヲ致シマシタノデアリマス
ガ、茲ニ委員會ノ經過ヲ極ク簡單ニ申上
グマス、其理由ハ既ニ政府委員ヨリ御説明ガ
アリマシタノデ、此處デハ略シマシテ、改
正案ニ於キマシテ登記スルコトヲ得ル樹木
ノ集團ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムトアリ
マスノデ、其勅令ノ内容ニ付テ司法農林兩
省ノ政府當局ヨリ色々詳細ニ説明ヲ聽取イ
タシマシタ、而シテ審議ノ結果本案ノ制定
ハ現下ノ林業趨勢ニ鑑ミマシテ、極メテ適
切ナルモノト考ヘマシタニ依リマシテ、政
府ノ提出法律案ヲ全會一致テ可決イタシマ
シタ、右御報告申上ゲマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀
會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第二讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第二讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第二讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○侯爵中御門經泰君 違警罪即決例中改正
法律案ノ特別委員會ノ御報告ヲ申上ゲマ
ス、此法律案ハ刑事補償法案ト同ジ委員ニ
付託サレマシテ、委員會ヲ開キマシテ審議
イタシマシタ所、僅カ三條ノ改正デゴザイ
マスアレドモ、人權保護ニ於テ……保護ヲ
擴張スル意味ニ於テ、最モ適切ナル法案ト
シテ、委員會ニ於キマシテハ直ニ滿場一致
ヲ以テ可決確定イタシマシタ、右御報告ヲ
致シマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀
會ヲ開クコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第二讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會
ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵清岡長言君 賛成

○副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ
動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト
認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 委員會ノ審議
ノ都合上暫時ニテ休憩イタシマス
午後二時二十五分休憩

午後九時十九分開議

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ書記官ヲ
シテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

(小林書記官朗讀)

本日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル左ノ政府
提出案ハ同院ニ於テ本院ノ修正ニ同意シ奏
上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

自動車交通事業法案

本日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案
ハ直ニ裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ
通知セリ

簡易生命保險法中改正法律案

重要産業ノ統制ニ關スル法律案

關稅定率法中改正法律案

明治四十二年法律第二十二號中改正法律
案

本日本院ニ於テ可決シタル左ノ衆議院提出
案ハ直ニ裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院
ニ通知セリ

違警罪即決例中改正法律案

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和六年度歳入歳出總豫算追加案(第一
號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案(特第一號)

官報號外

昭和六年三月二十六日

貴族院議事速記第三十九號

議長ノ報告

日程變更ノ動議

昭和六年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)外五件 會議 六六七

本日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ
産業組合中央金庫法中改正法律案
農會法中改正法律案
耕地整理法中改正法律案
樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル法
律案

六大都市ニ關スル法律案

地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ關
スル法律案

河川法中改正法律案

古物商取引法中改正法律案

大正十五年法律第五十二號中改正法律案

震災ニ因ル土地區劃整理施行地區内ノ假
建築著手期限變更ニ關スル法律案

出版權法案

銀行法中改正法律案

保稅工場法中改正法律案

日本勸業銀行法中改正法律案

日本興業銀行法中改正法律案

農工銀行法中改正法律案

○議長(公爵近衛文麿君) 前刻ニ引續キマ
シテ會議ヲ開キマス

○伯爵林博太郎君 此際日程ヲ變更シ直ニ
昭和六年度歳入歳出總豫算追加案、第一號、
昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算追加
案、特第一號、豫算外國庫ノ負擔ナルベ
キ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第一號、昭和
五年各特別會計歳入歳出豫算追加案、特第
一號、昭和六年度歳入歳出總豫算追加案、第
二號、昭和五年度歳入歳出總豫算追加案、第
一號ヲ追加シ、之ヲ議題トセラレムコト
ヲ要求イタシマス

○子爵榊原隆吉君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 林伯爵ノ議事日
程變更ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

(起立者多數)

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマ
ス

○議長(公爵近衛文麿君) 昭和六年度歳入
歳出總豫算追加案外五案ノ會議ヲ開キマ
ス、委員長報告、豫算委員長林伯爵

一昭和六年度歳入歳出總豫算追加案(第
一號)

一昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算追
加案(特第一號)

一豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲
スヲ要スル件(追第一號)

一昭和五年度各特別會計歳入歳出豫算追
加案(特第一號)

一昭和六年度歳入歳出總豫算追加案(第
二號)

一昭和五年度歳入歳出總豫算追加案(第
一號)

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審查シ總
テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリ
ト議決セリ依テ及報告候也

昭和六年三月二十五日

委員長 伯爵林 博太郎

貴族院議長公爵近衛文麿君

○伯爵林博太郎君 只今、日程ニ上ボリマ
シタ昭和六年度歳入歳出總豫算追加案第一
號外五件ノ追加案全部ニ付キマシテ、豫算
委員會ノ經過並ニ結果ヲ簡單ニ御報告ヲ致
シマス、三月十九日衆議院ヨリ受領イタシ
マシテ、三月二十日午後三時ヨリ豫算總會
ヲ開會イタシマシタ、二十三日午前十時四
十五分第三分科ヲ豫算總會ト併行シテ開會
スルコトト致シマシタ、而シテ三月二十五
日、即チ本日第三分科ノ報告ヲ得マシテ、
午後ニ總會ヲ開キマシテ採決ヲ致シマシタ
次第デゴザイマス、其順序ハ更ニ又後ニ申
上ゲルコトニ致シマス、議會モ切迫ノ際デ
ゴザイマスルカラシテ、簡單ニ申上ゲテ置
キタイト思フノデゴザイマス、總豫算追加
案第一號ハ歳入二千八百九十四万七千三百
八十六圓、歳出三千九百八十九万一千八百
差引歳入ノ不足万三千三百五十四十二

圓ト云フモノハ、昭和六年度豫算ノ歳入超
過額ヲ支辨スルコト云フ説明デアリマス、歳入
ニ付キマシテハ其重ナルモノハ生絲格付檢
査事業擴張ニ伴フ………抵當證券法制定施行
等ニ伴フ印紙收入増加九十二万圓、失業救済
道路改良費地方分擔金五百五十万圓、失業
救済ノ道路公債二千二百五十万圓等デアリマ
ス、歳出シ重ナルモノハ失業救済ニ二千七
百五十万圓ヲ要シマス、内國デハ國道改良
費千七百五十万圓、北海道デハ百万圓、地
方團體ニ對スル補助費ハ九百万圓トナッテ
居ルノデアリマス、昭和五年度中ノ風水害ノ
災害費ヤラ、静岡、神奈川震災復舊費ヤラ、
海運界ノ不況ニ伴フ失業船員ノ補助金等計
上シテアルノデアリマス、昭和六年度各特
別會計歳入歳出豫算追加案特第一號、此中
デハ主ナルモノデ問題トナッテ、色々討議
イタシマシタ大阪府立大阪醫科大學ヲ國ニ
移管スルト共ニ、理學部ヲ新設シ、大阪帝
國大學ヲ創設スルコト云フノデ、其歳入歳出
百三十二万八千九百九十九圓、ソレガ經常部
デ、臨時部ハ二十一万圓トナッテ居リマス、
尙ホ昭和六年度愛知縣立愛知醫科大學ヲ矢
張り國ニ移管イタシマシテ、名古屋醫科大
學トスルコト云フノデアリマス、此經費ハ經
常部ニ於テ九十七万圓デアリマス、其他米
穀供給調節特別會計法ノ改正ニ伴フ經費ヤ
ラ、簡易生命保險法ノ改正ニ伴フ經費等ガ
計上サレテアリマスガ、委細ハ速記ニ於テ
御覽ヲ願ヒマス、質問ニ付キマシテモ、極
ク簡單ニ申上ゲテ置キマス、先ヅ濱口首相
ニ對シテノ質問ガアリマシテ、是ハ海軍ノ
第二次計畫ニ付テ海相並ニ首相代理ニ應答
ヲ致シマシタコトト同一ナリヤ否ヤニ付テ
ハ、確カメルヤウナ質問ガゴザイマシテ、
首相ハ之ヲ豫算總會ノ時ト同ジコトデア
ルト云フコトヲ申サレタノデアリマス、豫
算ノ歳入減ヲ防グ爲ニ結局苛斂誅求ニ陥ル
ヤウナ虞ハナイカ、是ハ各官廳デ十分公正
ナル基礎ヲ下シ計算ヲナシタノデアアルカ

差引歳入ノ不足万三千三百五十四十二

圓ト云フモノハ、昭和六年度豫算ノ歳入超

過額ヲ支辨スルコト云フ説明デアリマス、歳入

ニ付キマシテハ其重ナルモノハ生絲格付檢

査事業擴張ニ伴フ………抵當證券法制定施行

等ニ伴フ印紙收入増加九十二万圓、失業救済

道路改良費地方分擔金五百五十万圓、失業

救済ノ道路公債二千二百五十万圓等デアリマ

ス、歳出シ重ナルモノハ失業救済ニ二千七

百五十万圓ヲ要シマス、内國デハ國道改良

費千七百五十万圓、北海道デハ百万圓、地

方團體ニ對スル補助費ハ九百万圓トナッテ

居ルノデアリマス、昭和五年度中ノ風水害ノ

災害費ヤラ、静岡、神奈川震災復舊費ヤラ、

海運界ノ不況ニ伴フ失業船員ノ補助金等計

上シテアルノデアリマス、昭和六年度各特

別會計歳入歳出豫算追加案特第一號、此中

デハ主ナルモノデ問題トナッテ、色々討議

イタシマシタ大阪府立大阪醫科大學ヲ國ニ

移管スルト共ニ、理學部ヲ新設シ、大阪帝

國大學ヲ創設スルコト云フノデ、其歳入歳出

百三十二万八千九百九十九圓、ソレガ經常部

デ、臨時部ハ二十一万圓トナッテ居リマス、

尙ホ昭和六年度愛知縣立愛知醫科大學ヲ矢

張り國ニ移管イタシマシテ、名古屋醫科大

學トスルコト云フノデアリマス、此經費ハ經

常部ニ於テ九十七万圓デアリマス、其他米

穀供給調節特別會計法ノ改正ニ伴フ經費ヤ

ラ、簡易生命保險法ノ改正ニ伴フ經費等ガ

計上サレテアリマスガ、委細ハ速記ニ於テ

御覽ヲ願ヒマス、質問ニ付キマシテモ、極

ラ、豫算面ノ歳入ハ得ラレルモノト信ズル、昨年ノ議會ト今日ノ議會トハ環境ガ大ニ違フ、昨年ノ議會ノ當時ニアリマシテハ、未ダ世界の不況ガ襲來シテ居リマセヌ、而シテ内地ノコノ環境デ、豫算ヲ見積ルタノデアリマス、然ルニ世界の不況ガ來テ、今日ノ場合歳入ガ激減スルコトナッタノデアリマスルカラ、此差別ガアルト云フコトハ、ドウゾ御含ミヲ願ハレタイト云フ首相ノ答辯デゴザイマス、其他ノ問題ハ失業問題ニ付キマシテ、自由労働者ノミニ重キヲ置イテ、之ヲ救護スルコト云フコトデアリマシテ、知識労働者並ニ熟練職工等ニ付テハ餘リ考慮シテナイト云フコトニ付テハ質問應答ガアリマシタ、ケレドモ其内容ニ付キマシテハ速記ニ之ヲ譲リマス、其他産業統制、恩給、減俸問題等ニ付キマシテモ質問應答ガゴザイマシタガ、ソレ等モ總テ速記録ニ譲リマス、デ要スルニ、今回ノ總追加豫算案ニ付キマシテ、最モ重大ナルモノデアッテ、問題トナッタノガ大阪帝國大學即チ理學部ノ新營費デゴザイマス、デスカラ此問題ニ付キマシテハ質問應答ヲ簡單ニ述ベテ見マス、是ハ極メテ重大ナル教育上ノ問題デアリマス、綜合大學ヲ大阪ニ置クト云フコトハ決シテ輕イ問題デアリノデアアル、即チ是ハ本豫算ニ計上スベキモノデアアル、而シテ次年度ヲ待テナイデ緊急ヲ要スルト云フヤウナコトハ、一目瞭然疑ヒノナイモノデアアルト云フヤウナモノニ限ルノデアリマスコニ、此大阪帝國大學ノ創設ハ一年待テモ遅クナイノデアアル、其點ハ如何デアアルカ、如何ニモ文部大臣ハ文教ニ忠實ナモノデナイヤウニ見エルガ其點ハドウデアアルカ、斯ウ云フ質問ガアリマシタ、此大阪帝國大學ヲ置クト云フコトハ、文相ノ答ニ依リマスト云フト、是ハ長イ間ノ案件デアアル、嘗テ衆議院ニ於テ決議案ヲ決議シタコトモアル、大阪ト云フ場所ノ商工業ノ中心デアルト云フ環境ニ依リマシテモ、大阪ニハ當

然應用ヲ主トシタ所ノ綜合大學ガアッテ然ルベキデアアルノデアリマスカラ、是ハ決シテ一朝一夕ノ思ヒ著キデ提案ヲ致シタモノデナイ、深い根柢ヲ有スルモノデアアルト云フコトデアリマス、又此世界の不況ニ直面シマシテ商工業ヲ根本的ニ立テ直スト云フコトハ、是ハドウシテモ學理的ノ基礎ニ依ラナケレバナラナイノデアアルカラ、大阪ノ商工業ノ中心地ニ此種ノ大學ヲ造ルト云フコトハ、最モ意義アルコトデアアルト云フコトモ申サレテ居リマス、京都ニハ四十分デ自動車で行ケルト云フヤウナ極ク近イ所ニ大學ガアル、ソレデアアルカラシテ是ハ京都帝國大學ノ附屬ノ一理學部トシテ置イテモ差支ヘナイデハナイカ、必シモ茲ニ獨立シタ綜合大學ヲ置クト云フコトハ必要ナイデハナイカ、尙ホ又單科大學ニシテ置イテモ宜イデハナイカト云フヤウナ質問ニ致シマシテハ、大阪ハ工業ノ中心地デアアル、從テ大學ノアルベキ然ルベキ土地デアリマシテ、各地ノ大學ハ各、其環境ニ應ジテ特色ヲ喚起スベキモノデアアル、大阪デハ大阪ノ特色ヲ喚起スベキモノデアアルカラ、此特色アル使命ヲ實現サセル爲ニハ、自然大阪獨自ノ特色ヲ持テ居ル所ノ大學ヲ造ッテ、而シテ之ニ依リテ國家ニ貢獻セシムルト云フコトハ決シテ惡イコトデハナイ、色ミノ大學ガ色ミノ使命ヲ以テ其特色ヲ發揮シテ、高等學府ノ理想ニ歩ンデ行クト云フコトモ結構デハナイカト思フ、ソレカラ其寄附ニ依リテ大學ヲ設置スルト云フヤウナコトハ聊カドウ云フモノデアアラウカ、又寄附モ忽チニシテ無クナルノデアッテ、其後ハ國家ノ經費ガ非常ニ大キナモノニナルデハナイカト云フヤウナ質問モ出マシタ、所ガ今回ノ寄附ハ百八十五萬圓ト云フモノデアアリ、且ツ其土地ハ之ヲ評價スルト一千五百萬圓ニモ上ボルノデアリマシテ、大阪ノ土地ガ大學ヲ希望スルト云フコトニ加ヘテ、斯カル多額ノ金額ヲ寄附スルト云フコトニ

ナルノデアアルカラ、誠ニ好イ機會デアアルカラ、此際之ヲ造ルト云フコトモ極ク宜イコトデアアルト云フ話デアリマシタ、デ大阪工業大學ト云フモノガ、總テ之ヲ移管スルト云フコトニ付キマシテハ、問答ガアリマシタ、國家ノ負擔ガ總テ殖エルト云フ議論ニ對シマシテ、文相ハ當分此三ツダケノモノデヤッテ行クガ、若シ將來ニ於テ他ノ學部ヲ綜合シテ行ク、或ハ新設シテ行クト云フコトガ不都合デアアルト云フ考ガアルナラバ、ドウシテモ是ハ帝國議會ニ出ス問題デアリマスカラ、貴衆兩院ガ之ヲ否決スルト云フコトニナレバ實行ガ出來ナイ、賛成スレバ實行ガ出來ルト云フコトノ、其機關ヲ經ナケレバナラナイノデアアルカラ、今日將來ノ經費ニ付テ云々ト云フコトハ問題ニナラナイコトデアアル、又九州大學ニ理學部ヲ置イタ方ガ大阪ニ新營スルヨリハ宜イノデアハナイカト云フヤウナ話ニ對シテハ、元來是ハ寄附ガ動機トナッタ居ルノデアアルカラ、此寄附金ヲ以テ九州ニ理學部ヲ置クト云フコトハ如何ナモノデアアラウカ、是ハ不可能ナコトデアアラウト思フ、又研究所ヲ作ッテ實際的ニ研究シタ方ガ大學ヲ作ルヨリ宜クハナイカト云フ議論ニ對シテモ、寄附ト云フモノノ精神目的ガ大學ヲ作ルト云フコトニアアルナルカラ、是モ不可能デアアルト云フヤウナ答辯デアリマス、ソレカラ又大學ト云フモノハ、方々ノ帝國大學モマダ本當ニ完備シテ居ラナイ、特ニ東京ナドハ震災後ニ於ケル復舊ナドガ十分ニ出來テ居ラナイノデアアル、然ルニ又新シク屋上屋ヲ加ヘテ、茲ニ大阪ニ大學ヲ造ルト云フヨリモ從來ノ不完全ナル大學ヲ完成シタ方ガ順序デハナイカ、特ニ今日財政ノ窮乏セル時ニ於テハ然リト思フノデアアルト云フヤウナ質問ニ對シテハ、過去ノ大學ガ完成シナレバ大阪ニ大學ヲ造ルトコトノ出來ナイト云フコトニハナッテ居ラナイ、特ニ大阪ニハ此點、理、工ノ綜合大學ト云フモノガ必要デアアルノデア

ル、而シテ二ツ以上ノ大學ガアレバ、是ハ綜合大學ト云フコトガ出來ルノデアッテ、極メテ是ハ今日緊急ニ必要ナモノデアアルト云フ答辯デアリマス、然ラバ斯ノ如キ重要ナル問題ハ、國民精神ノ作興、教育ノ方針、文政ノ重要ナル事項ニ關シテハ、文政審議會ニ付議スルト云フコトニナッテ居ルノデアアルカラ、此問題、即チ大阪ニ理學部新設ノ如キ綜合大學ヲ作ルト云フヤウナ大キナ國家ノ教育問題ニ對シテハ、宜シク文政審議會ニカケテカラ追加豫算ナリ、本豫算ナリニ出スベキモノデアアルト云フコトデアリマス、其點ハドウデアアルカ、大學令ノ改正デアリマストカ、學制ノ根本的ノ改革等ニ付テハ從來文政審議會ニカケタノデアアルガ、一度決マッテ居ル所ノ大學令ニ基イテ新シク大學ヲ作ルト云フ場合ハ、其法規ノ實行デアアルカラシテ、殊更ニ文政審議會ニ從來カケテ居ラナイ、九州大學ノ如キモ文政審議會ニカケズニ實行サレタ位デアアルカラ、從來ノ例ニ倣ッタノデアッテ、決シテ違法デハナイト考ヘルト云フヤウナ議論デアリマス、是等ニ付テハ委細ノコトハ、ドウカ速記ニ於テ十分ニ御覽ヲ願フ、又新聞紙等ニ於テ十分ニ載セラレテアリマスカラシテ、ドウカソレニ付テ御覽ヲ願ヒマス、斯ク致シマシテ、本日即チ三月二十五日午後四時二十分ニ總會ヲ開キマシテ、而シテ第三分科ノ主査ヨリ其經過ノ報告ヲ得マシタ、而シテ先ヅ大阪帝國大學ニ關スル追加豫算ヲ除イテ討議ニ入リマシタ、而シテ討論ニ移ッタノデアリマス、時ニ一委員ヨリ内務省ノ追第一號第三十四款ニ於テ、失業救済ノ費用ガ二千七百五十萬圓アリマシテ、其中デ政府ガ直轄シテ國道ヲ修理スルト云フ事業ノ費用ガ一千七百五十萬圓ト云フ大キナモノガ見積デアアル、而シテ之ニ要スル事務費トシテ八十五萬八千圓ト云フ又大キナモノガ見積デアッテ、勅任官一人云々ノ官吏モ新シク之ガ採用スルト云フコトニナッテ居ル

ガ、今日官吏ノ免官モ控ヘテ、失業ヲ防グ
ト云フヤウナ場合デアリ、而シテ色ミノ方
面ニ於テ内務省モ官吏ガ餘テ居ル筈デア
ル、デアルカラシテ、本省ニアル所ノ勅任
官以下ノ技師モアルコトデアルカラ、之ヲ
以テ十分間ニ合ハスベキデアルノニ、新ニ
此際八十五万八千圓ト云フ金ヲ事務費ニ使
フト云フコトハ穩健デナイト思フ、ドウカ
是ハ失業ノ方面ニ有益ニ且ツ生キルヤウニ使
テ貰ヒタイト云フ希望ガ出マシテ、此意見ト
云フモノハ皆サンノ御賛成ガア、タ次第デゴザ
イマス、斯ノ如ク致シマシテ、採決ニ移リマシ
タル所、過半数ヲ以テ可決ニ相成リマシタ、次
ニ大阪帝國大學ノミノ追加豫算ニ付テ討議
ニ移リマシタ次第デゴザイマス、此際ニ修
正案ガ提議サレタノデゴザイマス、即チ大
阪帝國大學ニ關スル豫算全部ヲ削除スルト
云フ修正ノ動議ガ出マシテ、其動議ハ成立
イタシマシテ、討議ニ入リテ採決ヲ致シマシ
タ次第デゴザイマス、既ニ先程來議論ノ……
此大阪大學ニ付テノ可否ノコトハ、只今モ
ウ一通リ申上ゲマセヌデモ、重複イタシマ
スカラ是モ省イテ置キマス、此修正案ノ採
決ノ結果十六對三十二デ以テ是ハ否決ニ相
成リマシタ次第デゴザイマス、次ニ大阪帝
國大學追加豫算ノ原案ニ付キマシテ討論ニ
入リマシタ、圖ラズモ茲ニ附帶決議ノ問題
ガ出マシテ、ソレニ付テノ議論ガ出タノデ
ゴザイマスガ、其附帶決議ト申シマスノハ
大阪帝國大學創設ニ關スル豫算ハ之ヲ承認
スルモ其實行ニ方リテハ文政審議會ノ議ニ
付スルヲ要ス

此附帶決議ノ意味ニ付キマシテモ質問
應答ガゴザイマシテ、先ツ其實行ニ方リ
テハト云フ、實行トハ何デアアルカト云フ
コトニ付キマシテハ、即チ講座ガ幾ツア
リ、教授ガ何人要リ、助教教授ガ何人要ルト
カ云フコトニナリテ居ル、其人ナリ、其室
ナリ、其内容等ヲ如何ニスルカト云フヤウ
ナコトニ付テ、此運用如何ニ付テハ文政審

議會ニカケル、豫算ハ可決スルケレドモ、
其實行方法ニ付テハ文政審議會ニカケテ貰
ヒタイト云フ意味ダト云フコトニ付テノ質
問應答ガア、タノデゴザイマス、之ヲ文相
ニ質問サレタ方ガゴザイマスガ、文相ハ
此文政審議會ニカケルト云フコトハ、文相
トシテ申スノデハナイ、若シモ此附帶決議
ガ希望トシテ通過イタシマスレバ、文相ニ
於テハ之ヲ考ヘマシテ、文政審議會ニカケ
テモ宜シイ、其結果ガ否決サレタラドウデ
アルカ、是ハ否決サレナイト云フコトヲ確
信シテ居リマス、否決サレル場合ノコトハ
考ヘテ居ラナイト、斯ウ云フ返事デアリマ
ス、サウシテ此附帶決議ト云フコトハアト
ニ廻シマシテ、原案ニ付キマシテ決ヲ採リ
マシタ所、過半数ヲ以テ此原案ガ可決ニ相
成リマシタ、其附帶決議ニ移リマシタル
所、或委員ヨリ豫算ノ決議ニハ協賛權ヲ犯
サザル範圍ナラバ宜イガ、今日ノ此附帶決
議ノ如キハ全ク重イモノデアッテ、而モ此豫
算ノ決議ヲ束縛スル意味ヲ有テ居ル、是ハ
從來ノ例トシテハナイコトデアアル、而モ未
ダ生ゼザル將來ノ、即チ事後ノコトヲ決ス
ルト云フコトガ附イテ居ルノハ誠ニ不都合
デアルト云フ意味ノ意見ガ出タノデアリマ
ス、又此豫算ヲ出ス前ニ文政審議會ニカケ
ルナラバ宜シイ、一旦此議會ヲ經テ然ル
後ニ文政審議會ニカケルト云フコトハ不當
デアアル、若シモ實行ニ當テ不明ナ點ガアル
ナラバ、宜シク豫算委員會ニ於テ之ヲ尙ホ
更ニ詳シク論ズルノモ宜シ、本會議ニ於テ
モ論ズルノモ宜シ、議會ハ議會トシテノ權
能ヲ發揮シテ議會ノ中デ豫算ノ全部ヲ議了
スルト云フノガ本議デハナイカ、事後ニ之
ヲ文政審議會ニ諮ルト云フガ如キハ、是ハ
貴族院ノ豫算ノ案議ノ權威ヲ輕ンズルモノ
デアアル、而モ自ラ輕ンズルモノデアリ、責
任ノ轉嫁ト謂ハナケレバナラナイト云フヤ
ウナ御議論ガ出タノデゴザイマス、是デ附
帶決議ニ付キマシテノ可否ヲ問ヒマシタル

所三十二對二十四デ以テ、此附帶決議ヲ通
過イタシマシタ次第デゴザイマス、之ヲ以
テ豫算追加案全部ガ結局可決ニ相成リマシ
タ次第デゴザイマスガ、最後ニ一委員カラ
個人トシテノ希望ヲ申出デラレマシタ、特
別會計豫算案ハ從來一切ノ特別會計ヲ一冊
中ニ網羅シテ之ヲ要求スル例ナラモ、偶共一
部ニ修正削除ヲ加フルノ必要アル場合ニ於
テ他ノ何等關係ナキ特別會計ヲ之ニ伴ハシ
ムルコトハ甚ダ不合理ナルヲ以テ今後其取
扱ヲ變更シテ一部ノ修正削除ニ依リ他ノ關
係ナキ特別會計ニ累ヲ及ボサザルヤウ處理
ニ付考慮セラレムコトヲ望ム、今回ノ此追
加豫算案ヲ見マシテモ、從來ノ如ク大阪帝
國大學ノ經費ダケヲ削除セムトシテモ、他
ノ特別會計其他ニ互ニ煩瑣ナル方面ニ及
ンデ居ルノデアリマシテ、其多岐ニ互ニ居
リ、煩雜ニ互ニ居ルノデアリマシテ、誠ニ
之ヲ議決スル上ニ於テ處理ニ苦シム次第デ
アルカラ、將來ハ豫算ノ編成ヲ簡潔ニシ
テ、其款項目ヲ明カニシテ、而シテ單純化
シテ能ク是ガ分ルヤウニシテ提出セラレム
コトヲ望ムト云フ意味デゴザイマスルガ、
此希望ハ誠ニ尤モナコトデアリマシテ、皆
サンノ賛成サレタ點デゴザイマスルカラ、
私ガ此處ニ皆サンニ、諸君ニ御報道ヲ致シ
テ置キマス、右ノ經過ニ依リマシテ、追加
豫算案全部ハ可決ニ相成リマシタ次第デゴ
ザイマス、此段御報告ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ修正案發
議者ノ説明ヲ許シマス、坂本男爵
昭和六年度歳入歳出總豫算追加案(第
一號)ニ對スル修正案
昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算追
加案(特第一號)ニ對スル修正案
右議院法第四十一條ニ依リ提出候也
昭和六年三月二十五日
發議者
男爵坂本 俊篤 男爵斯波忠三郎
男爵千秋 季隆 南 弘

贊成者
嘉納治五郎 眞野 文二
男爵平野 長祥 男爵小原 隆吉
男爵神山 郡昭 男爵長松 篤榮
内田 重成 男爵北大路實信
男爵今枝 直規 男爵千田 嘉平
男爵郷 誠之助 男爵金子 有道
男爵赤松 範一 男爵藤村 義朗
男爵小畑大太郎 男爵有地藤三郎
男爵黒田 長和 男爵井田 警楠
男爵今園 國貞 男爵東郷 安
男爵伊藤 文吉 男爵足立 豐
男爵寺島 敏三 男爵井上 清純
男爵高崎 弓彦 男爵伊江 朝助
男爵中村 謙一 男爵北島 貴孝
男爵沖 貞男 男爵關 義壽
男爵三須 精一 男爵長 基連
男爵稻田 昌植 男爵肝付 兼英
男爵大寺 純藏 男爵園田 武彦
石渡 敏一 竹越與三郎
小久保喜七 林 平四郎
坂田 貞 花井 卓藏
瀬谷勇次郎 根本祐太郎
佐藤 信古 田中 一馬
鳴海周次郎 男爵渡邊 汀
貴族院議長公爵徳川家達殿

(第一號)
昭和六年度歳入歳出總豫算追加
九頁
(小字及ハ修正ナリ)
第一條 昭和六年度歳入追加額ヲ 貳千八
百七拾五萬貳千參百八拾六圓
百九拾四萬七千參百八拾六圓歳出追加
額ヲ參千八百八拾八萬五千九百貳拾八圓
共ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫
算ニ據ルヘシ
甲號

六六九

五	〇
〇	〇
〇	〇
〇	〇

登凡

追加豫算ニ對シ

タイト存ズルノデアリマス、今恒太阪

ズ、且ツ斯カル經費ヲ要求セムト欲セ

ニモ拘ラズ、遽々然トシテ之ヲ昭和六

不ノ咄々怪事ト言ハネバナリマセ又

ノデアルガ、先例ノ有無ハ必シキ

デアリマス、宜シク事ノ輕重ニ鑑ミマ

心ヲノデアリマス、即チ先例ナクトモ新

又政ノ發達改善ヲ茲ニ見出サルヘキモノ

ガ如キノ、實施ニ先ダツテ文政審議會ノ

又、文政審議會ニ後テ諮問サルベシト

有デアリマス、即チ今茲ニ歳出追加豫算

議會ニ諮問サレタ時 著シテ議會ヲ力阻

下出來マセカ、勿論、法律上カラ申

寺文相ヲ之ニ依ッテ拘束スルモノデアル

又、併ナガラ既ニ文相モ豫算總會ニ於

昭和八年度
昭和九年度
三五〇、〇〇〇

テ申述ベラレタ如ク、政治的ニ又道德的ニハ大イニ其拘束ヲ受タベキモノデアアル、斯様ナ意味ヲ申述ベマシタノデアアリマス、我々ノ見ル所ニシテ正シト致シマスレバ、若シ斯様ナコトガ文政審議會ニ諮問サレマシタラバ、必ズキ本員ハ是ガ否認サルベキ運命ヲ持テ居ルモノト確信スルノデアアリマス、如何トナレバ我々ノ知ル限リニ於テ文政ニ經驗アリ且ツ大學行政ノコトニ携ハリテ經驗アル斯界ノ權威者ト申ス者ハ、悉ク此大阪ノ帝大新設ニ對シテ同意ヲ表スル者ナキヲ見テ殆ド其歸結ハ明瞭デアアルト思フノデアアリマス、殊ニ不可解ニ感ジマスノハ議會ノ權能ト附帶決議トノ關係デアアルノデアアリマス、即チ見ヤウニ依リマシテハ、議會ノ權能ヲ一部、文政審議會ノ責任ニ之ヲ委スル如キ感ガアルノデアアリマシテ、是ハ議會自ラガ其權能ヲ輕ンズル所ノ狀態ニアルト云フコトハ甚ダ惜ムベキコトデアアルト思フノデアアリマス、又文相ハ斯様ニ申サレテ居ルノデアアリマス、文政審議會ニ諮問スレバ乾度其承諾ヲ得ベキコトヲ確信スルト官ハレテ、其他ヲ言ハレナイノデアアリマス、殆ド、否決セラレルト云フガ如キコトヲ想像サレテ居ラヌノデアアリマス、是ハ隨分不可思議ナ言動ト官ハネバナラヌノデアアリマス、如何トナレバ初メカラ斯様ニ承諾ヲ得ベシト豫斷スルナラバ、文政審議會ニ付議スルコトハ唯形式ニ過ギナイコトニナリマシテ、當豫算委員會ガ其實行ニ當リ文政審議會ノ審議ニ付スベシトスル其眞意ニ副ハナイモノデアアリマス、果シテ斯ノ如キハ、此附帶決議ナルモノハ結局無用ノ長物ト官ハネバナラヌコトニナルノデアアリマス、尙ホ是ヨリ簡單ニ、大阪大學新設ニ反對シマスル所ノ理由ヲ申述ベテ見タイト思フノデアアリマス、其第一ハ現在ノ大阪府立醫科大學ニ新タニ理科大學ヲ加ヘ、之ヲ以テ綜合大學トスル案ハ眞正ナル所ノ綜合大學ノ要素ヲ缺クモノト云フコトデアアリマ

ス、眞ノ綜合大學ノ意義ヲ充サムト致シマスルニハ、少クモ之ニ法科、文科ヲ加ヘネバナリマセヌ、然ルニ今同ノ大阪帝大ノ計畫ハ此要素ヲ缺クモノデアアリマス、而カモ此要望ハ京都ノ帝大ヲ利用スルコトニ依リマシテ、十分ニ其要望ハ充シ得ルノデアアリマス、京都ト大阪ノ間ハ其往來ハ約三十五分若クハ三十八分間デ、十分デアアルノデアアリマス、此場合ニ於キマシテハ、京都ノ大學ハ……京都、大阪ハ單ニ地ノ名稱ト、行政區劃ノ相違ニ過ギナイノデアアリマス、京都帝國大學ハ大阪ノ帝國大學トシテ存在シテ居ルト見テ實質上何等變ル所ノアルヲ見ナイノデアアリマス、何ヲ苦シンデ國費多端ノ折柄、ソレヨリモヨリ以上ノ經費ヲ要スル急ナルモノアル日ニ於テ、尙且ツ忍ンデ之ヲ繰延ベ、又ハ手ヲ拱イテ實施スル能ハザルコトヲ憾ムノ日、何ノ餘裕ガアデカ、之ナクトモ濟ム所ノ大阪ノ帝大ヲ新設スルノ要アラムヤト思フノデアアリマス、例ヘバ東京帝國大學ノ如キ、又ハ東京工業大學ノ如キ、震災後、其回復ニ要スル所ノ施設ハ昭和七年又ハ八年ニ完成スベキ筈ノモノガ、ソレヲ繰延ベテ、昭和十九年マデ待テ、ヤツト完成スルト云フ狀態ニアル、斯様ナ狀態ニアルノ日ニ於テ、斯様ナ不急ナモノヲ設クル所以ヲ知ラヌノデアアリマス、其第二ハ明年ヨリ現在ノ大阪工業大學ヲ之ヲ新計畫ノ大阪帝大ニ合併スベキ所ノ案ハ、是ハ單科大學ノ工業大學ヲ設立イタシタ所ノ其趣旨ニ反スルモノデアアルト云フコトデアアリマス、文部大臣ハ曰ク、大學ハ必シモ山紫水明ノ郷ヲ選ブ要ハナイノデアアル、大阪ノ如キ工業並ニ商賣ノ殷賑ナル塵埃ノ中ニ生レテコソ、其特色ヲ期待シ得ルノデアアル、洵ニ味アル御言葉トシテ御同意ヲ表スルモノデアアリマス、唯夫レ同感デアアリマ

リマス、由來、大阪ハ煙ノ都ト唱ヘラレテ、其工業ノ旺盛ナルヲ以テ特色トサレタモノデアアリマス、此特色ノ中ニ生レタ特色ノ一部コソ、彼ノ他ノ大學ニ今日其類例ヲ見ザル所ノ燃料ニ關スル講座ノ如キ、近來初メテ大阪ノ工業大學ニ其講座ノ創設ヲ見ルニ至ラノデアアリマス、此一例ノ如キ應用ヲ主トセル所ノ大阪ノ工業大學ヲ單科大學トシテ初メテ其特色ヲ味フコトガ出來ルノデアアリマス、諸君信州ノ更科ノ蕎麥ハ其土地ニ於テ初メテ其好味ヲ味フコトガ出來ルノデアアリマス、近頃ハソレガ平凡化イタシマシテ饅頭粉ノ多イ東京ノ白イ蕎麥ト同様ニナテ、又昔日ノ好味ヲ味フコトガ出來ヌキウニナラノデアアリマス、大阪ノ工業大學モ綜合大學ノ名ヲ僭稱シテ他ノ醫科ノ理科ノ一緒ニナリマシタナラバ、折角ノ工業單科大學ノ好味ト云フモノヲ失フ眞ニ平凡化シテシマハムコトヲ恐レルモノデアアリマス、其第三ハ未完成ノ儘ニアル所ノ諸大學ニ必要ナル諸經費ガ繰延ベラレテ顧ミラレズ、此日ニ於テ不完全ナル綜合大學ヲ造ルコトノ必要ナキコトデアアリマス、是ハ例ヘバ自分ノ子供達ノ學校用ノ教科書ヲ筆紙墨サヘ調フルコトガ出來ナイノニ、一箇ノバチマ帽子ガ三十圓四十圓スルモノヲ其身分不相應ナ帽子ヲ銀座ノ有名ナル洋品店カラ買ハタト云フモノト擇ブコトガナイノデアアリマス、當局ノ説明ハ工業、貿易ノ殷賑ナル特色アル大阪ニ、他日ノ飛躍ノ基ヲナス爲ニ綜合大學ヲ造ルモノデアアル、斯様ナ御説ハ至極結構デアアルト思フノデアアリマス、然ラバ大阪カラ往來ノ便宜ノ距離ニア

ニ陷クモノデアアリマス、大阪ニ帝國大學アリト云ヘバ如何ニモ大阪人ハ鼻ガ高イヤウナ心地ガスルデアリマセウ、學校ノ先生達モ帝大ノ教授ト云ヘバ如何ニモ肩身ノ廣イヤウナ心地ガスルノデアリマセウ、大阪人ガ帝大ノ新設ヲ欲スル心持ハ本員ハ之ヲ諒ト致シマス、此意味ニ於テ同情ヲ致スモノデアアリマス、然ルニ單リ怪シム

〔簡單明瞭ニ願ヒマス〕ト呼フ者アリ、文教ノ中心トシテ例ヘバ頭是ナキ子供等ガ身分不相應ノ玩具ヲ欲シイト言ウデモ、ソレハマダチト分ニ過ギテ居ルノダト調戒ノ立場ニアルベキ親父ガ、眞先ニナッテ其子供ト一緒ニ騒グト云フノハ如何ニモ心得難イコトデアアリマス、輕佻風ヲ成スコトハ今日ノ時弊トシテ、文教ノ府ニアル者ハ先以テ之ヲ戒ムベキ地位ニアル者ト致シマシテハ、頗ル不可解ナコトト官ハネバナリマセヌ、文相ハ今日我財政狀態ハ如何ナル時期ニ際會シテ居ルト云フコトヲ御存知デアリマセウカ、若シ經費ガ許スナラバ文教ノ管轄内ニ於テ尙ホ幾多ノ未了事件ニシテ施設ヲ要スルコトノ急ナルモノガ澤山デアリマセウ、又國家トシテ幾多經費ヲ支出ニ憚ンデ居ルモノガデアリマセウ、思想善導ハ現内閣ノ最モ重キヲ置ク所ノ政策デアリマス、然ルニ救護法ヲ實施スル爲メ其財源ノ出所ニ苦シムノ餘リ、射倖心マデヲ挑發スルノ虞アリトシテ幾多非難ノ定評アルニ拘ラズ、尙且ツ之ヲ忍ンデ其財源ヲ、競馬法ニ求メントスル程切迫シテ居ル財政難ノ今日デアリマス、本員ハ只今茲ニ文相ニ向テ、國家風教上、何故ニ競馬法改正案ノ提出ニ當リ閣議ニ於テ承認ヲ與ヘラレタカラ、之ヲ咎メムトスル者デアリマセヌ、唯斯カル見易キ道理ヲ等閑シ去ラレタコトヲ最モ遺憾トスルト云フコトヲ申シテ置キマス、要スルニ本員ト雖モ若シ財政ガ之ヲ許スナラ國內到ル所ニ多數ノ帝國大學ノ設立サル

コトヲ希望スル者アリマス、併シソレハ言フベクシテ實行シ能ハザル事柄アリマス、要ハ其財政ト相談シテ其緩急如何ヲ顧ミルコトデアリマス、然ルニ當局ノ爲ス所ハ茲ニ出デズシテ、財政ノ前途モ顧ミズ、文政當局ニモ不似合ナル輕佻浮華ノ謗ヲ免レヌ大阪帝大設置ノ希望ヲ獎勵セラレルニ至デハ、其本末緩急ヲ誤ル甚シキコトヲ嘆ゼザルヲ得ナイノデアリマス、是故ニ本豫算案ニ向ヒテ修正ヲ施サムトスル所以デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 石渡敏一君

○石渡敏一君 石渡敏一君

○議長(公爵德川家達君) ドウ云フ問題デアリマスカ

○石渡敏一君 希望決議ニ付キマシテ少シ御尋ネシタイト存ジマシテ……

○議長(公爵德川家達君) 成ルベク大キナ聲デ願ヒタウゴザイマス、議長ハ石渡君ノ御言葉ヲ大聲デナケレバ伺ヒ取レヌト惧レマス

○石渡敏一君 ソレデハ老人デアリマスカラ聲ガ潰レテ居リマスカラ、其所ニ行テ簡單デモ申上ゲルコトニ致シマス

○石渡敏一君 演壇ニ登ル

○石渡敏一君 此切迫シタル時ニ清聴ヲ汚スノハ甚ダ恐入リマスガ、極ク僅宜シウゴザイマスカラ暫ク御猶豫ヲ願ヒタイト思ヒマス、皆様モ先程御聴キニナッテ居ルト思ヒマスガ

「聲ヲ大キク願ヒマス」ト呼フ者アリ豫算委員長ヨリ報告ガアリマシタ、其報告中ニ斯ウ云フコトガアリマシタ、「希望決議、大阪帝國大學創設ニ關スル豫算ハ之ヲ承認スルモ其實行ニ當リテハ文政審議會ノ」此所ハ少シ私聲ヲ大キクシテ何シヤウト思ヒマスガ、議ニ付スルコトヲ要スト云フコトヲ言フテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ委員長ノ御報告ガ先程アツクノデアリ

マス、之ニ付キマシテハ珍シクモ委員會ニ於テ希望決議ニ付テ文部大臣ニ對スル質問ニ議員ノ間ニ於テ議論ガアツタノデ、斯ウ云フコトハ餘リ無イ、サウシテオマケニ此表決ノ際ハ唯御賛成デスカト云フ委員長ノ言葉バカリデナク、立テ三十二ノ二十四ノ數マデモ闕ハシタ位ナ問題ナノデアリマス、希望決議トシテハ非常ニ重大ナル問題トシテ之ヲ議シタノデアリマス、所ガ私考ヘマスルノニ貴族院ニ於テハ、貴族院規則ノ百十二條ニ依リマシテ、表決デスカ……

「表決ニハ條件ヲ附スルコトヲ得ス」ト云フコトニナッテ居ルト存ジテ居ルノデゴザイマス、サウシマスルト此希望決議ハ豫算委員會ニ於テハ極メテ重大ナルモノトシテ取扱ヒマシタガ、本議場ニ於テハ問題ニモナラス、表決ノ中ニモ入レヌト云フモノデアラウト思ヒマス、從テ追加豫算ノ決議ハ大阪ノ帝國大學理學部經常費、經常費ニ付テハ唯可否ノ決議ダケデアツテ、此希望條件ト云フモノハ風ノ如ク消エタモノ、煙ノ如ク見エナクナツタモノト思フノデゴザイマス、此點ヲ議長ニ一ツ伺ヒタイノハ、先例モアルヤウニモ思ヒマス、私ノ知テ居リマスル先例モアリマスルシ、明カニ此貴族院規則ノ百十二條ニ規定ガアルノデアラカラシテ、是ハ議題ニハナラヌ、表決ノ中ニモ入レヌト云フコトノ御答辯ガ欲シイノデアリマス、併シ若シサウデナイトナルナラバ、茲デ今一應豫算委員會ニ於テノ討議ヲ一ツ繰返サナケレバナラヌカト思フノデゴザイマス、ソレニハ及バナカラウト存ジマシテ、議長ニ一ツ百十二條ニ付テ聴取シ難シカラ來マシタ決議ハ如何ナル結果ニナルモノデアラウ、希望決議ハ此所デハ消エテシマフモノデアラウト云フコトニ付テ御伺ヒテ致ス次第ナンデゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 石渡敏一君ニ御答ヘ致シマス、議長ガ採決ヲ致シマスノハ

議案ノ可否ノミニシテ、所謂希望條件、又ハ附帶決議ノ如キハ議案デゴザイマセヌカラ、表決ニ付シタコトハゴザイマセヌ、ソレ御了解ニ相成リマシタカ

○石渡敏一君 分リマシタ

○議長(公爵德川家達君) 便宜上坂本男爵等ヨリ提出セラレマシタ修正案ヲ此際議題ト致シ討議ヲ許シマス、通告順ニ依リマシテ田所君ノ登壇ヲ望ミマス

(田所美治君演壇ニ登ル)

○田所美治君 昨ハ委員長ノ報告ニ賛成ヲ表シマシテ

(副議長公爵近衛文麿君議長席ニ著ク) 只今坂本男爵ノ御發議ニナリマシタ修正ニ反對スルモノデアリマス、帝國大學ヲ創設スルト云フコトハ、文部當局ニ取リマシテハ最モ重大ナル問題デアラウト思フノデアリマス、最高等ノ教育機關デアリシ、最大ノ經費ヲ要スルモノデアリマシマス、ソレ故ニ從來大學ヲ創設シマシタ沿革ヲ見マスト云フト、何十年ニ一回、即チ東京ノ大學ハ御承知ノ通り明治初年カラ數十年間成立シテ居ルモノデアアルノデアリマスルガ、第二ノ大學タル京都大學ニ於キマシテハ御承知デモアラセマス通り日清戰爭ノ戰後ノ經營ト致シマシテ今日マデ三十有餘年間掛リマシテ、ヤト完成ヲ告ゲテ居ルヤウナ譯ナンデアリマス、即チ各部ノ分科大學ハ揃ヒマシテ、先ヅ完成ヲ告ゲテ居ルト云フ譯ナンデアリマス、又其次ニ起リマシタ東北大學或ハ九州大學ノ如キモノハ、亦明治三十七八年ノ戰役後ノ我が國運ノ將來ニ照シマシテ、戰後ノ經營トシテ教育上ノ最モ重大ナル施設トシテ創立セラレタノデアリマス、今日ニ至ッテ先程來坂本男爵御述ベノ通り未ダ完成ヲ告ゲテ居ラヌ部分モアルノデアリマス、北海道ノ大學ハ又明治初年カラ農學校ガ變遷イタシマシテ今日ノ體形ニナッテ居ルノデアツテ、マダモ完成ト云フ譯ニモ參リマスマイ、大學ノ創設

ニ關シマシテハ莫大ノ經費ヲ要スル、又多年ノ期間ヲ要スル、其譯ハ教員ヲ養成セナケレバナラヌ、大學ハ最高ノ教育機關デアリマスルカラ、之ニ堪能ナル教員ヲ養成スルガ爲ニハ或ハ我國ノ優秀ナル學生ヲ選抜シテ數箇年間海外ニ研究ヲサスト云フヤウニ必要モアル、各分科ニ互リマシテ數百名ノ教員ヲ造ラナケレバナラヌ、斯ウ云フコトノ困難ガアルノデアリマス、又既往ノ數十年ヲ見マスト云フト學生ガソレ程居ラナイ、斯ウ云フ爲ニ徒ラニ地方ニ分在シテ大學ヲ創立スル必要ハナカッタノデアアルケレドモ、ソレ故ニ帝國大學ノ創立ハ中ミ重大ナルコトデアツテ、之ヲ輕率ニ扱フベキコトデアリナイミナラズ、扱ハムト欲シテ出來ナイ問題ナノデアアルノデアリマス、ソレハ此度ハデス、ソレハ此度ハ大阪カラ莫大ノ寄附金ヲ持テ參リマシテ、ソレガ自分ノ聞ク所ニ依レバ昨年ノ十二月ノ末ニ府會ノ決議ヲ得マシテ、サウシテ政府ニ陳情シ、固ヨリソレマデニハ數年間ノ問題ニモナラテ居リマシタラウ、又具體的ノ確定議ハ昨年ノ十二月ノ二十日過ぎデアツタサウデアリマスガ、二十日前後ニ府會ノ決議ヲ經テ文部省ニ之ヲ提出シ、ソレガ爲ニ總豫算ノ編成ニモ後レ、追加豫算デ、急遽此莫大ノ寄附金ヲ喜ンデ受取テ、提出シタト云フ形ニナッテ居ルノデアリマス、坂本男爵ガ先程御話ノ通り唯慎重ナル考慮ヲナシテ、文政審議會ニモ諮問ヲシテサウシテ可決シタ上ニ、徐ロニ將來ニ考ヘテ之ヲ施設スルト云フヤウナ點ニ付テハ缺ケテ居ルノデアリマス、文部大臣ハエライ御馳走ノ据膳ヲ供セラレタモノデアリマスカラ、鵜呑ミニシテシマッテ飛付イタト云フ形ニナッテ居ルノデアリマス、私モ初メハ此事ヲ聞キマシテ頗ル是ハ輕率ナル扱アル、而モ其大學ノ内容ハト申シマスルト云フト、現ニ存シテ居ル所ノ府立ノ醫科大學ニ加フルニ理科大學ヲ以テスル、二ツアルカラシテソレハ綜合

ニ關シマシテハ莫大ノ經費ヲ要スル、又多年ノ期間ヲ要スル、其譯ハ教員ヲ養成セナケレバナラヌ、大學ハ最高ノ教育機關デアリマスルカラ、之ニ堪能ナル教員ヲ養成スルガ爲ニハ或ハ我國ノ優秀ナル學生ヲ選抜シテ數箇年間海外ニ研究ヲサスト云フヤウニ必要モアル、各分科ニ互リマシテ數百名ノ教員ヲ造ラナケレバナラヌ、斯ウ云フコトノ困難ガアルノデアリマス、又既往ノ數十年ヲ見マスト云フト學生ガソレ程居ラナイ、斯ウ云フ爲ニ徒ラニ地方ニ分在シテ大學ヲ創立スル必要ハナカッタノデアアルケレドモ、ソレ故ニ帝國大學ノ創立ハ中ミ重大ナルコトデアツテ、之ヲ輕率ニ扱フベキコトデアリナイミナラズ、扱ハムト欲シテ出來ナイ問題ナノデアアルノデアリマス、ソレハ此度ハデス、ソレハ此度ハ大阪カラ莫大ノ寄附金ヲ持テ參リマシテ、ソレガ自分ノ聞ク所ニ依レバ昨年ノ十二月ノ末ニ府會ノ決議ヲ得マシテ、サウシテ政府ニ陳情シ、固ヨリソレマデニハ數年間ノ問題ニモナラテ居リマシタラウ、又具體的ノ確定議ハ昨年ノ十二月ノ二十日過ぎデアツタサウデアリマスガ、二十日前後ニ府會ノ決議ヲ經テ文部省ニ之ヲ提出シ、ソレガ爲ニ總豫算ノ編成ニモ後レ、追加豫算デ、急遽此莫大ノ寄附金ヲ喜ンデ受取テ、提出シタト云フ形ニナッテ居ルノデアリマス、坂本男爵ガ先程御話ノ通り唯慎重ナル考慮ヲナシテ、文政審議會ニモ諮問ヲシテサウシテ可決シタ上ニ、徐ロニ將來ニ考ヘテ之ヲ施設スルト云フヤウナ點ニ付テハ缺ケテ居ルノデアリマス、文部大臣ハエライ御馳走ノ据膳ヲ供セラレタモノデアリマスカラ、鵜呑ミニシテシマッテ飛付イタト云フ形ニナッテ居ルノデアリマス、私モ初メハ此事ヲ聞キマシテ頗ル是ハ輕率ナル扱アル、而モ其大學ノ内容ハト申シマスルト云フト、現ニ存シテ居ル所ノ府立ノ醫科大學ニ加フルニ理科大學ヲ以テスル、二ツアルカラシテソレハ綜合

大學デアル、一ツハ單科デアリマス。カヲ成
程ニツ以上ナラソレハ綜合デアル、斯ウ云
フ解解ノ下ニ帝國大學ノ創立費トシテ寄附
ノ儘ヲ其儘所請審議ノ機關ニモ掛ケズシテ
ヤツタ、ソレハ掛ケタ先例ハナイト云フコト
デアリマスガ、サウ云フ扱ニナツテ居ル
デアリマス、チヨト考ヘマスト云フ
大阪ニハ工業大學ハアル、既ニ官立ノ工業
大學ガアルノデアリマス、マア官ノ……政
府ノ方カラ申シマスルト云フト、之ヲ本ト
シテ之ニ醫科大學ヲ附ケル、ト云フト
語弊ガアリマスガ、ソレヘ併合シ、又新ニ
必要ガアレバ理科大學ヲ附ケルト、斯ウ行
カナケレバナラヌ順序ガ、醫科ガ先ニナリ
ソレニ理科ヲ附ケル、工業大學ハ間ニ合ハ
ザツカラ來年ニスルト云フ、斯ウ云フ案
ニナツテ居ルノデアリマス、即チ醫科ト工
造ト此三ツデ、先ヅ一ツ第一期ノ帝國大學ヲ
造ラフ、斯ウ云フ案ニナツテ居ルノデアリマ
ス、私ハ只今申上ゲマシタケデモ御了解
デアリマセウガ、是ハ丁度坂本男爵ノ御話
ノヤウニ、モウ少シ慎重ニ調査ヲ致シ、
丁度今同ノ醫科大學……愛知ノ醫科大學ノ
如ク、先ヅ大阪ノ府立ノ醫科大學ヲ政府ノ
官立ニ移シマシテ、醫科大學ヲ單科大學トシ
テ初メ受取テ、之ニ金ガ附イテ來レバ尙ホ
宜シイ、將來ノ施設即チ理科トカ或ハ工科
トカ云フモノヲ設ケル費用ニヤツテ行ク、ソ
レヲ徐ロニ第二回ノ慎重研究ノ上ニヤツタ
ナラバ、必ズ滿場ノ一致ノ御賛成ヲ得テ、何
ノ異論ナク通過シタコトダトモ思フノデア
リマス、又ソレハ本議院ガ學術ノ研究ニ熱
心ナル、過日ハ學術振興ニ關スル建議モ致
シタヤウナコトニ鑑ミテ、理科大學ヲ將來
設置スルト云フコトニ付テ何等異存ノアル
ベキ筈ガナイ、斯ウ思ハレルモノガデス、
前後イタシマシテ、總豫算ノ中ハ工業大學
ガ道入テシマシテ、ソレヲ引出スコトガ出來
ナイ、サウシテ醫科大學ト理科大學トガビ
ヨント追加豫算ヲ現ハレタ、而モソレハ帝

國大學デ莫大ナ經費ヲ要スルモノデアル、
京都ニモアルデヤナイカト、色ニナ非難ガ
起テ、連日豫算委員諸君ノ御面倒ナ問題ニ
ナツテ居タヤウデアアルノデアリマス、文部
大臣ガ大學……帝國大學創立ト云フモノニ
付テ、一層慎重ナル御考慮ノアルベキ筈デ
アツタト云フコトニ付キマシテハ、坂本男爵
ト其感ヲ同ジウスル者ナノデアリマス、ガ
其内容ハ……此案ノ内容ハ如何ト云フコト
ヲ顧ミマスレバ、之ヲ否決スル譯ニハ行ク
ナリト思フノデアリマス、一番ノ……色ミ
ナ理由ハアリマセウガ、私ガ想ヒ出ス第一
ノ理由ハ、今日高等學校ヲ卒業シマシテ大
學ニ這入レス者ガ二千二百名モ居ルノデア
リマス、モト殖エテ居リマセウ、昨年ノ統
計デ二千二百名大學ニ這入レナイデ、高等
學校ヲ卒業シテ彷彿シテ居ル者ガアル、小
學校ヲ卒ハ、中學校ヲ卒ハ、高等學校ヘ這
入ル時分ニハハエライ競争試験ヲ受ケマシ
テ、十數箇年ノ閑歷ヲ以テ、サウシテ大學
ヘ這入ル積リテ來タヤウガ、大學ヘ這入レ
ナイ、門戸ハ鎖サレテ居ル、既設大學五大
帝デナンボ多ク募リマシテモ這入レナイ者
ガ二千何百名アルノデアリマス、當局ニ於
テモ、歴代ノ當局苦心ヲ致シテ居ラウ
イ、ソレ故ニデス、私ハ昨年……其前モデ
アリマセウガ、是ガ學制上憂慮スベキ、最
モ憂慮スベキ點ノ一ツデアル、少シ前ノコ
トヲ申上ゲマスと云フト、大正七八年頃ニ
學制ノ改革ヲ當時ノ臨時教育會議致シマ
シテ、下ハ小學カラ上大學ニ至ル各種ノ制
度ノ改正ヲ行ハタ其際ニ、小學校カラ中學校
ヘ這入ル關係タカ、中學校ヲ出テ高等學校
ニ這入ルト云フ關係ニ付キマシテハ、深キ
考慮ガ拂ハレマシテ、サウシテ今日中學校
モ相當ニ増加ヲ致シ、又高等學校モ非常ニ
増加ヲ致シタノデアリマス、高等學校ノ學
制ヲ當時變更イタシマシテ大學ノ豫備機關
デアツタモノヲ普通教育機關ニシタ、ナンボ

デモ入レテ宜シイ、尤モ性質上幾ラ入レテ
モ宜シイノデアリマスルガ、定員ニモ制限
ハ相當イタシテ、學級ノ定員、全校ノ定員
ニモ制限ハ付シテアリマスルガ、性質ガ一
變シマシテ、大學ノ豫備教育ノ機關ト云フ
コトヲ改メテ男子ノ高等普通教育ヲ完成ス
ル機關デアル、斯ウ云フコトニ致シタノデ
アリマス、高等學校令ノ第一條ニ、高等學校
ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目
的トシト云フコトガアリマス、ソレ故官立
ノ外ニ、公立モ許シ、私立モ許シタノデア
リマス、凡ソ他日大學ニ行クベキ人員ヲ見
積リマシテ入學ヲセシムルト云フ考デアリ
マセウケレドモ、中學カラ卒業スル者ガ年
年殖エテ參リマシテ、從テソレヲ解決スル
爲ニハ、官公私立ノ高等學校ニ於テ又出來得
ルダケ餘計收容シナケレバナラヌ、斯ウ云
フ事情ガ相俟タマシテ、到頭大學ニ來ル時
分ニハ大學ノ門戸デ二千名モ道路ニ漂ウテ居
ル、斯様ナ狀態ナシテアリマス、必ズヤ諸
君ノ御近親ノ中ニモサウ云フ惱ミヲ持テ
御出デニナル御方ガアルダラウト思フノデ
アリマス、今年高等學校ヲ卒業シテ來テ十
數年ノ普通教育ヲ完成シテ、サウシテ大學
ニ這入ル積リデアツタ這入レナイ、來年這
入レルカト云フト這入レナイ、這入レナイ
カモ知レナイ、又競争試験ヲ受ケナクチヤ
ナラヌ、斯ウ云フ狀況デアリマス、其數二
千有餘名ニ達シ、今其者ガ方向ニ迷フコト
ハ深キ同情ニ値スルノミナラズ、一方ニ於
テハ此間ニ爲スコトナク、進マント欲シテ
進ム能ハズ、退カムト欲シテ高等學校ニ再
ビ殘ル能ハズ、何處カノ學校ニ籍ヲ置イテ
徵兵ノ關係ヲ解決シ、徐ニ來年ヲ待ツ、若
シソレ健康ナル準備教育ヲ受クルモノデア
リマスルナラバ宜シイケレドモ、此間ニデ
ス、此間ニ幾多ノ誘惑ガアツテ、今日最モ恐
ルベキ思想ノ問題ニ達著スルコトガ多イノデ
アリマス、私ハ總數二千二百名ト云フコト
ヲ昨年度ノ統計ヲ承ルニ至テ、實ニ驚カザ

ルヲ得ヌノデアリマス、半分……約半分バ
カリ這入レナイ、ソレ故私ハ昨年文部大臣
ニ向ヒマシテ豫算總會ニ於テ此點ハ何トカ
シテ改良セナケレバナラヌ、高等學校ヲ普
通教育ノ機關ニシタコトハ宜カク、中學校
ヲ卒業シテ來タ者ヲ餘計入レルト云フコト
ニ於テハ宜カク、又ソレガ出デカラニ實際
ノ獨立ノ働キヲシテ吳レバ宜シイノデア
リマスケレドモ、今ノ組織ガサウナツテ居
ヌ、一箇年ノ專攻科ト云フモノヲ置キ得ル
コトニナツテ居ル、然ルニ政府ハ一ツモ置イ
テ居ラヌ、是モ政府ノ落度ダラウト思フ
デアリマスガ、一校モ專攻科ト云フモノヲ
置イテ居ラヌ、專攻科ハ一箇年置キマシテ、
大學ニ這入ラヌ者ヲ其處デモノニシヤウ、
獨立ノ生計ノ出來ルモノニスル、亞米利加
ノ「カレッジ」ノヤウナモノニスル、斯ウ云
フ趣旨デアツタノデアリマス、ソレガ一ツモ
來テ居ラヌ、之ヲ置クノモ一ツノ方法デア
ラウガ、モウ一ツハ二千何名モ居リ、今年
ニナレバ又殖エル、來年ニナレバ亦殖エル、
累年増加シテ行クノデアリマス、其中ノ幾
部分ノモノハ危險思想ニ傾イテ行キ一生ヲ
亡ボス者モアル、斯ウ云フ時ニ當テ大學ヲ
創設スルヨリ仕方ガナイ、斯ウナツタ以上
ハ、既ニ高等學校ハ三十二校アルノデアリ
マス、私共昔ノ時代ニ、二十年モ前ニハ唯
五ツカ七ツバカリノ高等學校ガ、今日ハ三
十有ニナツテ居リマス、其生徒數ハ一万八
千人モ居ル、依ツテ以テ中學校カラ卒業シ
テ來タ者ガ相當ニ收容サレ、解決セラレル、
斯ウ云フモノデアリマスガ、大學ノ方ハ曩
ニ御話シタヤウニ、明治ノ初カラ出來テ來
マシタ數十年經テ居ル東京帝國大學ヲ初
メ、京都ハ二十八年来、東北大學、九州
ハ三十七年来、北海道ノ大學ハ農科大
學、此五ツノ大學ニ限ラレテ居リマシテ、
各大學ノ總長ハ、文部ノ當局カラハ熱心ニ
一人デモ餘計入レテ吳レト云フコトヲ毎
年責メラレルノデアリマスガ、サウ無限ニ

一ツノ教育機關ニ包容スルコトガ出來ナイ、今日ニナクシテモ大學ヲ創設シナケレバナラス、大學ヲ建テマスヨリ外仕方ガナイ、學制ヲ改革シマシテ多少ノ進ミハ付キ得ルカモ知レマセヌガ、既ニ三十二ノ高等學校ニ於テ一萬八千人ノ學生ヲ收容シテ居ル場合ニ於テハ……サウシテ其半分位ガ這入レナイ、斯ウ云フ狀況ハハ決シテ、決シテ輕ク視ル譯ニハ行カヌト思フゾアリマス、我々將來最モ憂フベキ、憂フベキ問題ハ此點ニ在リシテ居ルと思フゾアリマス、然ルニ大學ノ創設ハ、殊ニ帝國大學ノ創設ニ付テハ數百萬圓ノ金ガ要ル、若シソレ完成マデヲ入レマシタラハ、千何百萬圓、二千萬圓ニモ及ブダラウト思フゾアリマス、ソレ故ニ政府ハ著手スルコトガ出來ナイ、單科大學ナルモノヲ各地ニ拵ヘマシテ、ソレハ多クハ是マデノ專門學校ヲ昇格シテサウシテ拵ヘテ居ルモノガ多イゾアリマス、手ヲ取リ早ク「バラック」ノ不完全ナル設備ヲ變ヘマシテ、サウシテ名ヲ變ヘテ、漸次其實ヲ充實スル、斯ウ云フコトガ所謂昇格ト云フモノガ各地ニ起リタ、大阪ノ工業大學ノ如キモ其一ツデアルゾアリマス、サウ云フヤウナ情勢デアリマスニ依テ、拵ヘムト欲シテモ金ハ無イ、既ニ坂本男爵モ御話ノ通り繰延ヲヤッテ居ル、既設大學ヲ完成スレバ宜イデヤナイカ、擴張スレバ宜イデヤナイカ、斯ウ言フテ見タ所デ、無イ袖ハ振レナイ、政府ニハ金ガ無イノデス、一文モ無イ、而シテ尙ホ繰延ベテ居ル、昭和十七年デスカ、十九年デスカマデモ繰延ベテ居ル、既設大學ヲ繰延ベラレダケハ繰延ベテ其處ニ向テ求メテモ、昭和十九年後ナラ知リマセヌガ、今日以後近イ將來ニ於テハ望ムコトガ出來ナイ、擴張セヨト言フテモ擴張スルコトガ出來ナイ、新シク建テヤウト言フテモ出來ナイ、既ニ決シテ居ル經費マデ勝手ニ延バシテ行ク、斯ウ云フヤウナ情勢デアル、是ハ深甚ニ我々

考ヘナケレバナラス、一人デモ多ク大學ニ入レテヤラナケレバナラス、既ニソコマデ來タ以上、又來ツツアルノデス、ソレ故高等學校ノ入學者ヲ制限スルノモ、一ツノ方法デアリマセウガ、最早來年モ、今年モ、募集スル者ヲ何百名減ジテモ、是モ出來ナイ、是モ事實出來ナイ、中學校ノ者ガドン來テ居リマス、我國ホド由來御承知ノ如ク教育ノ向上ヲ望ム國民ハナイノデアリマスカラ、又幾ラカ高等學校ヲ斯ノ如ク變ヘマシタ時ニモ、ソレ程多クハ帝國大學ニ志望スマイト云フ一ツノ豫想ガアッタノデアリマス、高等學校デ止ス人間モ一割位アルダラウ、又單科大學ニ行ク人間モ澤山アルダラウ、斯ウ色ニ考ヘテ全國ヲ見渡スト云フト一萬八千人ノ中三分ノ一、六千人ガ出テ來ル、斯ウシテ所ガマア五百カハ何處カ外ノ所ヘ捌ケルダラウ、斯ウ云フヤウナ豫想デアッタノデスガ、焉ゾ知ラム、スッカリ裏切ラレテ居ルノデアリマス、帝國大學ヘ這入リタイ、我々ノ子供デモ帝國大學ヘ這入ラナケレバ來年迄モ、再來年迄モ待つ、待つ間ニ誘惑ニ掛ル、是ガ教育上ノ一大缺陷ニ今ナッテ居ル、斯ウ云フ事情ガアルノデス、ソレヲ解決スルノハ色ニナ方法ガアリマセウ、制度ノ上ニ付テモ改良スベキコトモアリマセウ、ガ、茲ニ帝大ガ一ツ只勿ニ出來ルト云フ場合ニ於テハ、國費多端デアルトカ財政云々ト云フ話ガアリマシタガ、一文モ出サナイデ、千五百萬バカリ、大阪ガ金持ト雖モ……持ッテ來タ譯デ、四萬何千坪アリサウデアアルマスカ、四萬何千坪ノ土地ト二萬坪バカリノ建物、而モ其建物ハ大正十三年頃ニ拵ヘタノデアアル、恐ラク官立ノ大學中デモ之ニ匹敵スベキモノハ少イダラウト思フゾデアリマスガ、立派ナ新シイ設備ヲ以テ參リマシテ、スッカリ之ヲ差上グルカラ、ドウゾ醫科大學ヲ移管シテ、サウシテ是ハ理科大學ヲ一ツ増設シテ貴テ帝國大學ニシテ貫ヒタイ、斯ウ云フ希望

ヲ持ッテ來タ譯ナンデアリマス、ソレデ文部大臣ハ之ヲ採リマシテカラニ、追加豫算デ出シタト云フコトニ付テハ、緊急避クベカラザル費用デアルヤ否ヤト云フコトニ付テ、御議論モアルヤウデアリマスルガ

〔議長公爵德川家達君議長席ニ復ス〕

兎ニ角サウ云フ希望ヲ具體的ニ申出デ來タハ、昨年ノ十二月ノ末デアアル、總算算ハ出來テ居タ時デアッテ、不完全ナガラタタ二ツノモノヲ單科トスル……綜合トシ得ル、僅ニ二種ノ大學ガ出來ルト云フコトデ、之ヲ綜合大學トシテカラニ提案ニナッテ居ル、斯ウ云フ譯ナンデアリマス、是ハ只今理科大學ガ出來ルトシタ所デ、サウ多數ノ生徒ヲ收容スル譯ニハ行キマスマイ、理科大學ノ收容力ハ設備其他ノ關係ニ於キマシテ、法科トカ文科トカ云フヤウニ餘計ニ入レル譯ニハ參リマスマイガ、兎ニ角三分科ニ於キマシテ、數學、物理、化學ノ三科デアアルト思フ、凡ソ六十名バカリガ收容ガ出來ルト云フコトデアリマス、工夫スレバモウ少シ行クダラウト思フ、私ハソレ故高等學校ノ卒業生ヲ收容シテ、大學ヘノ入學難ヲ緩和シ、教育ヲ健全ナラシメルト云フコトニ付テ是ハ實質ニ付テ否決スベキモノデハナイダラウト思フゾデアリマス、第二ニ是ガ若シ法文デアレバ色ノ議論モアリマセウガ、理科大學デアアルノデアリマス、理科大學ニ付テハ本院ハ建議ヲ致シマシタ、此議會ニ於テ建議ヲシテ、又藤澤議員ノ如キハ學術ノ振興ニ付テ長イ意見モ述べラレ、歐洲ノ、世界ノ列國ノ大勢ニ鑑ミテ、ドウシテモ學術ヲ振興、殊ニ理學ノ研究ヲヤラナクチャナラス、ソレニモ當坎ル譯ナンデアリマス、又大阪以北京都ニアルカラト云フコトデアリマスガ、京都以西ニハ理科大學ガ一ツモナイ、九州ニ先程御話ノ通り拵ヘヤウトシテ出來ナイデ居ル、恐ラクハ近イ將來ニ於

テハ出來マスモ、何故ナラバ財政ガ許サナイ、サウ云フコトニナッテ居ルノデアリマス、京都以西ニハ一ツモナイノデアリマス、京都ト大阪トハ輔車唇齒ノ所デアルトハ言ヒナガラ、若シソレ、ソレニ對シテハ大學ハ必ズシモ「ローカル」ナモノデハナイ、地方的ノモノデハナイ、京都ニ這入テ居ルモノハ近畿ノ學生ニハ限ラス、全國ノ學生ガ翹集スルノデアリマスカラ、全數ニ於テハ只今申上ガタ通りデアアルノデアリマスカラ、京都ニアッテ大阪ニアッテ尙ホ足ラヌト私ハ考ヘルノデアリマス、而シテ大阪ニ置クベキ理由ニ付キマシテハ、今更申上ガル理由ノアルコトニ付キマシテハ、即チ商工業ノ中心トカ色ニノコトニ於キマシテ、ソレハ最早申上ダル必要ハナイノデアリマス、尙ホ第三ニハ將來國家ノ經費ハ當分要サナイ、何ニモ要ラナイ、將來此財政多端ノ際ニ云々ト云フ御話ガアリマシタガ、今度百八十万圓ハ理科大學ノ爲ニ寄附ノ經費ガ爲ニ、尙フ五箇年間ト云フモノハ經費ガ何ニモ要ラナイ、若夫レ此醫科大學ト、理科大學ト、ソレニ工業大學ヲ來年度ニ於テ合併イタシマシテモ、工業大學ハ今日ニ於テ既ニ官立ニナッテ居ルノデアリマスカラ、若シ現狀ノ儘推移スルト云フコトニ於キマシテハ、何等ノ經費ヲ當分要サナイ、尙ホ其上ニデス、法文ノ如キヲ加ヘルト云フコトニナレバ、其時ニハ經費ノ要求ヲ議會ニ出スノデアリマスカラ、其時ニハ我々ガ審議ヲスレバ宜イシ、斯ウナルノデアラウト思フゾデアリマス、デ經費モ將來莫大ノ經費ガ掛ルモノ云々ト云フ御話デアリマスガ、既ニ千五百萬圓バカリ此際掛ケタト同ジモノヲ持ッテ來テ、ソレヲ移スト云フコトニナルノデアリマスカラ、經費ノ關係ニ付テ憂フベキ狀況ガナイト思フゾデアリマス、マダ幾ラモ理由ヲ付ケレバアリマセウガ、私ハ以上ノ二ツ三ツノ點ニ鑑ミマシテモ、此案ヲ追加豫算ニ輕忽ニ出シタ

ト云フガ爲ニ、其實ヲ否認スベキモノデナ
イ、斯ウ思ハレノデアリマス、況ヤ先程
ノ文政審議會ニ付議云々ノ附帶希望モ付イ
テ居ルヤウデアリマスガ、之ニ付テ色ミ又
法律上ノ御見解モヤルヤウデアリマスケレ
ドモ、工業大學ト云フモノガ特殊ノ大學デ
アル、斯ウ云フ御話モアリマシタ、特殊ノ
大學デ、私ハ其儘結構ダラウト思フノデア
リマス、大阪ノ帝國大學ノ工科大學ハ詰リ
大阪ノ地方ニ最モ適當シタ工科大學デア
ル、斯ウ云フモノデ宜カラウト思ヒマスガ、
是ハ是等ノ點ニ付テハ文政審議會ノ審議ヲ
慎重ニスルコトデアルト思フノデアリマ
ス、サウ云フ意味ニ於キマシタ、文政審議
會ノ審議ヲ輕ルコトヲ要スト云フ、要スト
云フ言葉ハ誠ニドウモイカント思ヒマス
レドモ、ソレハ希望ノ條項トシテカラニ、
此上宜立ノ工業大學ヲ入レト云フ問題モ
アリマスルシ、尙ホ理科大學ニ數學、物理
化學ヲ置クコトニナッテ居リマスルガ、是等
ニ付テノ審議モ經テ居ラヌコトデアリマ
ス、幸ヒサウ云フ專門ノ機關ガアレバ之
ニ付議シテ、然ル後來年度以降ノ計畫ヲ立
テルト云フコトモ宜カラウト思フノデ
要スルニ此儘行キマスレバ、何等財政上ノ
増額ノ必要ハナク、寄附ノ儘數年間行ケ
ル、斯ウ云フモノデアリマスカラ、私ハ其
實ヲ取リマシテ、是ハ否決スベキモノデハ
ナイ、斯ウ云フ考デアリマス、折角ノ提案デ
アリマスルカラ、大阪ニ帝國大學ヲ造リ、
サウシテ國家財政ニ影響ヲ及ボサヌ範圍ニ
於テ成立ヲ希望イタシマス

〔男爵斯波忠三郎君演壇ニ上ル〕

○男爵斯波忠三郎君 會期切迫ノ折柄誠ニ
恐縮デアリマスルケレドモ、一言坂本男爵
ノ御提案ニナリマシタ修正案ニ賛成ノ意ヲ
表シタイト存ジマス、實ハ衆議院ヲ通過イ
タシマシタ、本院ニ廻リマシタ、此豫算ノ
一部ヲ削除イタスト云フコトハ、誠ニ忍ビ
ナイノデゴザイマス、併ナガラ我が帝國ノ
最高學府ノ爲ニ、是ハ已ムヲ得ズ、私ハ坂
本男爵ノ提案ニ賛成セザルヲ得ナイコトニ
ナタコトヲ悲シムノデアリマス、今回政府
ニ於テハ計畫サレテ提出サレタモノノ要領
ハ、現在大阪府ニゴザイマスル府立ノ醫科
大學ヲバ移管イタシマシタ、之ニ理學部ダ
ケヲ新設サレマシタ、醫學部ト理學部ノ二
學部ヨリ成ル帝國大學ノ綜合大學ヲ設立ス
ルト云フ案デアアルノデアリマス、而シテ醫
科大學ノ土地建物ノ外現金百八十八萬圓トカ
云フモノヲ大阪府ヨリ寄附サレルコトニ
ナッテ居ルノデアリマシタ、此寄附金ヲ以テ
理學部ノ新設設備費ノ費途ニ充テルト云フ
案デアアルサウデアリマス、而シテ理學部ノ
完成マデノ經常費ヲモ其寄附金デ以テ支辨
スルトカ云フ話デアアルノデアリマス、而シ
テ將來醫科大學ニ關スル限リ、醫科大學ハ
病院其他ノ收入ガアルガ爲ニ、醫科大學ノ
經費ハ取テ國庫ノ支辨ヲ要シナイト云フノ
デアアルサウデアリマス、而シテ理科大學ニ
關シマシテハ昭和十一年度ヨリ二十八萬圓
程度ノモノヲ國庫ノ支辨ニ仰グト云フコト
ニナッテ居ル計畫デアアルサウデアリマス、而
シテ今年度ニ於テ、醫學部ト理學部ヲ二ツ
並ベマシテソレヲ綜合大學ト稱シテ、之ヲ
設立イタシテ、明年ヨリ現在大阪府ニゴザ
イマス大阪工業大學ヲバ此綜合大學ノ一
學部トスルト云フ案ガアルサウデアリマス、
此事ハ豫算面ニハ現ハレテ居リマセヌケレ
ドモ、當局ノ御説明等ニ依リマシテ、其様
ニ拜承シテ居ルノデアリマス、此案ハ特別
追加豫算トシマシテ出タコトニ付テ先刻
カラ大分議論ガアッタノデアリマス申シ
マスルノハ、本豫算ヲ決定サルル時分ニハ
マダ大阪府カテノ寄附ガハ、キリシテ居ラ
ナカッタ關係カラデアラウト思フノデアリマ
シタ、明年ヨリ合併スルト申シマスル工業
大學ノ經費ハ既ニ一般豫算ニ於テ協賛ヲ經
テ居ルノデアリマス、ソレ位ハ突如トシ
テ提出セラレタ案デアアルノデアリマス、又
事程左様ニ此案ハ能ク練ラレテ居ナイデハ

ナイカト云フコトヲ疑ハシムル案デアアルノ
デアリマス、ソレハ兎モ角モト致シマシテ、
一體綜合大學トシテ現在文部省ガ茲ニ提出
セラレテ居リマスル、此特別豫算ニ於テ出
來マスル所謂文部省ノ所謂綜合大學ガ、果
シテ綜合大學ノ實ヲ學ゲルカ否ヤト云フコ
トニ付テ、私ハ多大ノ疑問ヲ有スノデア
リマス、帝國大學令ニハ御承知ノ通り、第
一條ニ於テ、帝國大學ハ數個ノ學部ヲ綜合
シテ之ヲ構成スルコトヲ居リマスカラ、一
ツ以上ノ學部ガアリマスレバ、ソレハ綜合
大學、即チ帝國大學ダト言ヘルデアラウト
思ヒマス、併ナガラ綜合大學ノ本質體ト致
シマシテ、學問ノ基礎トナルベキ學部ガ完
備シテ居ナケレバ、綜合大學ノ實ハ學ゲ得
ルコトニ足リナイノデアラウト思フノデア
アリマス、學問ノ基礎ヲ爲ス學科ト申シマ
スレバ、理學ト文學、是ガ總テノ學科ノ學
問ノ基礎デアリマス、醫學、法學、是モ學
問ノ基礎ヲ爲スモノトモ言ヒ得ルノデアリ
マス、農學部デアルトカ、工學部デアルトカ
云フモノハ、是ハドチラカト申セバ應用ノ
學問デアアルノデアリマスルカラ、綜合大學
ニ於テハ工學部、農學部ガ縱シ缺ケテ居テモ、
此基礎學科タルベキ所ノ理學部、文學部乃至
ハ法學部醫學部ト云フヤウナモノガ完備シ
テ居ナケレバ綜合大學ノ實ヲ學ゲ得ルコト
ガ難イノデアラウト思フノデアリマス、而
モ醫學部ト理學部ダケデ綜合大學ヲ造リ、
之ニ特殊ノ使命ヲ有シテ居ル單科大學ノ工
業大學ヲ附加セシメテ、之ヲ綜合大學トス
ルト云フコトニ至ッテハ、此綜合大學ノ本體
ヲ果シテ、是ガ充タシ得ルモノデアアルヤ、
又斯様ナコトヲ考ヘラレタ當局ハ果シテ綜
合大學ノ如何ナルモノデアアルカト云フコト
ノ眞諦ヲ御承知ニナッテ居ルノカ否ヤト云
フコトヲ私ハ疑ハザルヲ得ナイノデアリマ
ス、工業大學ノ特別ノ使命及帝國大學ニ於
ケル工學部ノ使命ト云フコトニ付テノ其違
ヒヲバ、茲ニ詳シク申述ベルコトハ、時間

ヲ取リマスルカラ省略ヲ致シマス、併ナガ
ラ工業大學ガ單科大學トシテ大阪ニ設立サ
レタ時ノコトヲ考ヘテ見マスルト云フト、
是ハ我が貴族院ニ於キマシタモノ、是ガ設
立……單科大學ヲ設立スルト云フコトニ付
テハ、往年非常ノ議論ガアッタノデアリマ
ス、併ナガラ遂ニ單科大學タル所ノ工業大
學ヲ造ルコトガ我國ノ情勢ニ鑑ミテ必要デ
アルト云フ、即チ大學令ノ……所謂大學令
ノ即チ第二條ニ當ルノデアリマス……大學
ハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例トス、但シ特別
ノ必要アル場合ニ於テハ單ニ個々ノ學部ヲ
置クコトヲ以テ一大學トナスコトヲ得云々
トアルノデアリマス、即チ是ニ該當スルノ
デアリマシタ、即チ特別ノ必要アル場合ト
云フコトノ爲ニ、此工業大學ガ設立サレタ
ノデアリマス、即チ單科大學トシテ特別ノ
必要アル場合ト云フコトデ、大阪ニ單科大
學ガ設立サレタノデアリマス、特別ノ必要
アル場合ト云フコトハ、即チ特別ノ使命ヲ
有シテ居ルト云フコトデアアルノデアリマ
ス、帝國大學ノ工學部ニ於ケル使命ト單科
大學ノ工業大學ニ於ケル所ノ使命トハ自ラ
異ナルト考ヘテ宜シイト思フノデアリマ
ス、從テ單科大學ノ工業大學ノ學科目ノ配
當デアルトカ、或ハ帝國大學ニ於ケル工學
部ノ講座制ノ如キ、是等ヲ對照シテ考ヘテ
見マスルト云フト、其使命ノ異ナルコトガ、
自ラ明カデアアルノデアリマス、帝國大學
ハ御承知ノ如ク講座制ナルモノガゴザイマ
ス、而シテ其講座ヲ擔任イタス所ノモノハ
教授デアリマス、擔任教授ガ一ツノ講座ヲ
擔任イタシマスレバ、其講座ヲ擔任イタシ
テ居ル所ノ教授ハ自分ノ藎蓄ヲ傾ケテ、所
謂教授ノ自由ヲ得テ居ルノデアリマス、然
ルニ單科大學ニ於テハ此講座制ハナイノデ
アリマス、此處ガ大ヒニ違フ所デアアルノデ
アリマス、其違ヒニ付テ詳シク申述ベレバ
非常ニ時間ヲ取リマスルカラ……先程カラ
簡單タト云フ御聲ガ田所君ノ御演說中ニ

於テモ起ルノデアリマスカラ、私ハソレヲ遠慮イタシマスルケレドモ、ソコニ大イナル違ヒガアルト云フコトダケヲ申上ゲテ置キマス、其違ヒノアル、特別ノ使命ヲ有シテ居ル工業大學ヲ唯數サヘアレバ宜イト云フ、數ヲ充ス爲ニ、頭數ヲ揃ヘル爲ニ、此大學ニ帝國大學ニク、付ケルト云フ案ノ如キハ綜合大學ヲ作ルト云フ其精神ニ悖テ居ルモノデアルト私ハ考ヘルノデアリマス、又或場合ニ於テ、私ハ當局カラ説明ヲ聽イタコトガアルノデアリマス、單科大學ノ使命ヲ其儘沒却セズシテ、綜合大學ニク、付ケルンダト、斯ウ仰シヤル、單科大學ノ、現在アリマス所ノ單科大學ノ工業大學ヲ改造シテ、帝國大學ノ工學部ニ適スルヤウニ改造シテ、之ヲク、付ケルノダト仰シヤレバ、工業大學ヲ潰ス云々ノ、事ノ善シ惡シハ別問題ト致シマシテモ、綜合大學ヲ作ルト云フコトノ意味ニハナルノデアリマス、併ナガラ特別ノ使命ヲ有シテ居ル工業大學ヲ其儘其趣旨ヲ失ハズシテ帝國大學ニク、付ケテ之ヲ行フノデアアル、綜合大學ヲ作ルノデアアル、斯ウ云フコトヲ承ルニ至、デハ、綜合大學ノ何タルモノデアアルカト云フコトノ御了解ガ有ルノデアアルカ、無イノデアアルカ、私ハ其點ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、斯カル事ヲ爲サレルノニ至、タリマ、十分ナ御研究ガ詰ンデ居リマスナラバ、斯カル事ハ有リ得ナイト私ハ思フノデアリマス、併シ此處ニ或ル論者ア、テ、單科大學ノ工科大學ノ必要ハナイト云フ論者モゴザイマス、大阪ニ綜合大學ヲ作ルコト是ナリト云フ論者ノ中ニハゴザイマス、是ハ綜合大學ヲ大阪ニ、此財政缺乏ノ際ニ置ク事ノ善シ惡シト云フコトハ別問題ト致シマスレバ、ソレハ理論トシテハ通ルノデアリマス、併ナガラ當局ノ言ハルル

ガ如ク現在ノ單科大學ノ工業大學ノ趣旨、其儘ヲ失ハズシテ、綜合大學ニ之ヲク付ケルト云フニ至テハ、私ハ之ヲ了解ニ苦シムノデアリマス、其目下ノ急務ハ人間ヲ澤山作ルト云フコトヨリモ、國家ノ須要ニ應ジテ、ドウ云フ者ガ必要デアルカト申シマスレバ、量ノ問題ニ非ズシテ質ノ問題デアリマス、過日モ本院ニ於テ滿場一致ヲ以テ可決セラレマシタ學術研究ニ關スル建議案ノ如キ、是ハ何ヲ意味スルモノデアルカト申シマスレバ、徒ラニ、ト申シテハ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、此教育機關ヲ擴張スルコトデナクシテ、此研究機關ヲ充實シテ貰ヒタイト云フコトガ、建議案ノ趣旨デアッタ存ズルノデアリマス、即チ學生ノ數ヲ増シテ欲シイト云フ意味デハナカッタノデアリマス、要スルニ此學問ノ向上ヲサセタイ、學問ノ向上ヲサスルニ付テハ研究機關ヲ充實サセタイト云フコトガ過日ノ建議案ノ趣旨デアッタ存ズルノデアリマス、先程、田所君ハ高等學校ヲ卒業シテ來ル學生ガ年々非常ニ増シテソレガ大學ニ入學スルコトヲ得ザルガ爲ニ惡結果ヲ生ジテ居ル、是ハ事實デアリマス、併ナガラ今回、大阪ニ此帝國大學ヲ御設置ニナツデモ、果シテ二千何百人トカト云フ年々入學……大學ニ入學シ得ザル憫レナル學生ノ救済ニ是ガ幾ラカナル力ニハ相違アリマスマイ、ソレガ幾ラカ助ケニナルカ存ジマセヌガ、極ク僅カナモノデアルトシカ思ハレナイ、何トナラバ現在モウ既ニ醫科大學ガゴザイマスノデアリマス、工科大學……工業大學モアルノデアリマス、新タニ出來ルモノハ理科大學ダケガ出來ルノデアリマス、理科大學ノ收容力ト云フモノハ、是ハドコノ大學ヲ御覽ニナツデモ、是ハ僅カノモノデアリマス、大阪ノ理科大學……今度新設ニナルト云フ理科大學ハ、果シテドノ位ノ收容力ガゴザイマススカ知ラヌガ、年々ノ收容力ハ數十人ニ止マルモノデハナイカト思フノデアリマス、田所

君ノ先程御述ベニナリマシタ、二千何百人ノ人間ノ收容ニ付テ大イニ貢獻スル所アルヤウニ仰セラレタケレドモ、是ハサウ云フコトニハナラヌト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ經費ノ點ニ付キマシテ、私ハ茲ニ餘リ申述ベタクハゴザイマセヌケレドモ、或ル期間ダケハ成程大阪府ヨリ寄附スル所ノ費用ヲ以テ支辨スルコトガ出來マセウ、併ナガラ綜合大學ノ實ヲ將來ニ於テ疊ゲルト云フ以上、文學部モ必要トナリマセウ、法學部モ必要トナリマセウ、是ハ從來設置サレタ帝國大學ノ實例ニ鑑ミテ見マヌレバ、最初ハ一二學部置キマシテ、漸次ニ之ヲ……學部ノ數ヲ殖ヤシテ、綜合大學ノ實ヲ舉ゲテ居ルノデアリマス、必ズ大阪ニ於テモ此要求ガ起ルコトハ明カデアリマス、又其帝國大學タル以上、其要求ノ起ルス、コトハ當然デアルト存ズルノデアリマス、之ヲ何故カ當分ト云フ言葉ハアツカ存ジマセヌケレドモ、兎ニ角、法、文ノ如キハ作ラナイノデアアル、如何ニモ國庫ノ經費ヲ是カラ要シナイノデアルカラ、是非之ヲ贊成シテクレト云フヤウナ御説明ニ承ッテ、私ハ甚ダ遺憾ニ存ジテ居ルノデアリマス、大學ヲ作ルト云フ位ノ御決心ガアルナラバ、何モ左様ニ御遠慮ニナッテ仰シヤルコトノ必要モナカラウト思フノデアリマスケレドモ、何故カ此際ダケヲ通過スレバ結構デアアルト云フヤウナ風ニ聞エルノハ、私ハ甚ダ心外ニ感ズルノデアリマス、我ガ帝國ノ學府ノ爲ニ、斯ノ如ク當局ガ仰セラレルコトハ、如何ニモ心外ニ堪ヘナイノデアリマス、併シ費用ノ點ニ付キマシテハ、是ハ綜合大學ト致シマシテ、現存既設ノ帝國大學ニ於キマシテハ、少クトモ二百万以上ノモノハキマシテ居ルノデアリマス、是等ノ費用ニ付キマシテモ、一部ハ醫科大學ガ稼ガラ、其點ハ出來ラウト云フヤウナコトモ承テ居ルノデアリマス、併シ醫科大學ノ收入ノ多イト云フコトハ、是ハ醫科大學ガ收入

方多イカラ其醫科大學ガ學問的ニ見テ立派ナル醫科大學デアルト云フコトハ言ヘナイト思フノデアリマス、醫科大學ノ收入ヲ増サウト思ヘバ、一等二等ノ病室ヲ澤山拵ヘテ、有產階級ノ病人ヲ澤山收容スレバ、收入ハ幾ラデモ殖エマスダラウト思ヒマス、民間ノ病院ヲ經營シテ居ルヤウナコトヲ御ヤリニナレバ、ヤレバソレハ收入ハ殖エルダラウト思ヒマス、併ナガラズノ如キコトヲ學府トシテ爲スコトガ善イカ惡イカト云フ點ニ至テハ、是ハ大イニ疑問トセザルヲ得ナイ、學府トシテ醫科大學ヲ有スル以上、是ハ何ノ爲ニ醫科大學ガ必要デアルカト云ヘバ、是ハ事實ニ付テ申セバ、施療患者ヲ増シテ其施療患者ヲ研究用ニ使フト云フコト、研究ノ目的ニ資スルト云フコトニアルノデヤナイカト思ヒマス、サウ致シマスルト收入ガ増スト云フコトハ、始終收入ノ澤山アルト云フコトハ、期待シ得ナイノデハナイカト思ヒマス、斯カルコトヲ目標トシテ大學ヲ造リ、又寄附金ガ此處ニアルカラ何デモ、ソレハ追加豫算デモ何デモ、是ハ計畫ハ杜撰デアッデモ、之ヲ設立シナキヤナラスト云フヤウナ御考デ、大學ヲ造ルト云フコトハ、是ハ極端ナ言葉カモ知レマセヌケレドモ、學界ヲ侮辱シタモノト言ヘナイコトモナイカトモ存ジマス、醫科大學ガアリ、又片方ニ特別ノ使命ヲ有シテ居ル大學ガアリ、ソレニ理科大學ヲ添付サヘスレバ帝國大學ニナルト云フヤウナコトガ、若シ實行サレタナラバ、此帝國ノ學生竝ニ學徒ニ對スル影響ハ如何デアリマス、寄附金サヘ出セバ帝國大學ガ出來、又其土地ニ目的ガ違ハウト違フマイト、或程度ノ學校サヘアレバ、ソレガ二ツ以上寄ルナラバ帝國大學ガ出來ルト云々ヤウナコトヲ、早吞込ミナリトモ、學徒ニサウ云フコトヲ示シタナラバ、學徒ガ左様ナコトヲ感ジタナラバ、其影響ハ如何デアリマセウ、往年各地ニ起リマシタ昇格問題ノ如キモノガ起リハ致シマス

ハ無カラウト思フノデアリマス、デアリマスル所ガナイヤウニ考ヘル、寧ロ學界ニ將來禍根ヲ貽スモノデハナイカト考ヘラレコトデアリマス、尙ホ詳細ニ涉ッテ申述ベタイロトモゴザイマスケレドモ、時間ノ切迫ノ折柄、遺憾ナガラ是デ止メルコトニ致シマス、男爵ノ御提案ニ御賛成アラムコトヲ希望スル次第デアリマス（拍手起ル）

○議長（公爵徳川家達君） 是ニテ討論ノ通告者ハ終リヲ告ゲマシタ、是ヨリ修正案ニ付キ採決ヲ致シマス、柳原伯爵外二十六名ヨリ記名投票ヲ以テ、坂本男爵外二十三名ヨリ無名投票ヲ以テ表決ヲ行フト云フ要求ガゴザイマシタ、而シテ柳原伯爵外二十六名ヨリ右記名投票又ハ無名投票ノ決定方法ヲ記名投票ヲ以テスルノ要求書ヲ提出セラレマシタ、依ッテ投票方法ヲ決定スル爲メ記名投票ヲ行ヒマス、記名投票ヲ可トセラルル諸君ハ、白票ヲ、無名投票ヲ可トセラルル諸君ハ、青票ヲ投函セラレムコトヲ望ミマス、本日モ一條公爵ヨリ順次御登壇ノ上、御投票ヲ願ヒマス

〔投票執行〕

○議長（公爵徳川家達君） 御投票漏レハゴザイマセヌカ……投票漏レナシト認メママス、書記官ヲシテ投票ノ計算イタサセママス〔書記官投票ノ計算ス〕

○議長（公爵徳川家達君） 投票ノ結果ヲ御報告ニ及ビマス、投票總數二百六十四、白票一、青票即チ無名投票ヲ可トセラルル者八十三、故ニ採決ハ記名投票ト決シマシタ〔參照〕

賛成 百八十一名
反対 八十三名

賛成者氏名

公爵一條 實孝君	公爵近衛 文麿君
侯爵蜂須賀正韶君	侯爵大久保利武君
侯爵細川 護立君	伯爵松本 宗隆君
伯爵柳澤 保惠君	伯爵川村 鐵太郎君
伯爵林 博太郎君	伯爵柳原 義光君
伯爵奥平 昌亮君	伯爵樺山 愛輔君
伯爵酒井 直亮君	伯爵小笠原 長幹君
伯爵酒井 忠克君	伯爵堀田 三次君
伯爵二荒 芳徳君	伯爵黒田 正恒君
伯爵木越 頼寧君	伯爵酒井 正元君
男爵本越 安綱君	男爵大井 忠正君
子爵高倉 永則君	子爵藤谷 爲寛君

[illegible]

男爵寺島	男爵松尾	男爵伊藤	男爵井田	男爵有地	男爵藤村	男爵金子	男爵郷秋	男爵斯波	男爵川上	男爵內田	男爵神山	男爵紀野	男爵嘉納	男爵坂本	男爵佐藤	男爵北里	侯爵佐氏	反對者	八馬	濱小	長林	松尾	奧澤	大森	金山	磯村	橋西	磯貝	根津	石川	森邊	今井	內藤	松村	馬場	青木					
敏三君	義夫君	國貞君	文貞君	磐楠君	義朗君	有助君	季隆君	竹治君	兵吉君	重成君	郡昭君	俊祥君	五郎君	俊篤君	三吉君	柴三君	木行忠君	兼介君	千代門君	右衛門君	嘉平治君	喜彦君	龜藏君	龜藏君	三吉君	太次郎君	浩進君	榮一郎君	三衛君	平兵衛君	五代五介君	久寬君	義一郎君	鎮一君	周三君						
男爵井上	男爵岡立	男爵東鄉	男爵足岩	男爵黑田	男爵赤松	男爵小畑	男爵辻大	男爵河原	男爵森田	男爵岡枝	男爵長松	男爵眞鍋	男爵土方	大島健一君	田中愛橘君	康昌君	侯爵松平	瀨川彌右衛門君	高廣武衛門君	絲原德七君	野村與吉郎君	三木儀兵衛君	濱口饒章君	横山甚藏君	五十嵐重舍君	津村春樹君	八木宗四郎君	藤原銀次郎君	土橋萬助君	高橋源吉胤君	齋藤善十郎君	齋藤喜一郎君	田村新吉君	板谷彥吉君	本山谷園一郎君	稻垣勝太郎君	菊池恭三君	馬越恭三君	樺越英平君	西藤資之助君	加野政元君

